

草本編



キンギョソウ（金魚草）
長洲町の町花です

撮影場所：長洲町役場北東側交差点西側の
長洲町青少年育成町民会議花壇

草本の概要

維管束（木部と師部が束になり水分や養分の通り道となる組織）の木部が余り発達しないで草質の茎のある植物で、地上に出ている部分が1年で枯れてしまう植物を草本とっております。そして生存年数によって1年草、越年草、多年草などがあります。

1年草は発芽後1年以内に開花・結実し植物全体が枯れる草本です。

越年草は種子から発芽したその年には開花せず、2年目になって開花して実を結び、その年の冬には根まで枯れてしまい種子だけが残る草本です。中には根を太くするため3年目に開花する草本もあります。

1～2年草、2年草などとも呼びますが、越年草とした方が適切な表現と思いますので、この表現に統一しました。

多年草は宿根草ともいい、毎年花を開き秋までには地上部は枯れるが、根や地下茎が多年にわたって枯れずに生存する草本で、キク科やユリ科の植物には多年草が多いです。

1年草・越年草・多年草の生活史

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1年草					—————							
越年草 (2年草)	—————							- - - - -			—————	
	—————								—————			
多年草	—————			発芽・開花は種によって異なります								

ヨモギ（蓬）

山野に普通に生えるキク科ヨモギ属の多年草。高さは1. 2 ㍎ほどになります。地下茎で増え、葉は羽状に深裂し、裂片に鋸歯があります。裏面には綿毛が密生して灰白色。莖先に円錐花序を出し小さな頭花を下向きに多数つけます。若葉で草餅または蓬餅を作ります。花期は9～10月。



イソギク（磯菊）

海岸の崖などに生えるキク科キク属の多年草。高さは40㍎ほどになります。葉の裏に丁字形の伏毛を密生し銀白色に見え、上から見ると葉縁が白く縁取られたように見えます。頭花は筒状花だけで舌状花はありません。似た種にシオギクがありますが、ほとんど同じです。花期は10～12月。



シマカンギク（別名：アブラギク）

西日本に多く、沿岸地より山野に多く生えるキク科キク属の多年草。莖は斜上し高さ80㍎ほどになります。葉は深く羽状に裂け、裏面には丁字状の毛が生えています。頭花は直径約2. 5㍎で黄色の舌状花と筒状花からなります。シマカンギクといいますが山にも生えています。花期は10～12月。



ヨメナ（嫁菜）

道端や湿った庭の隅などに生えるキク科ヨメナ属の多年草。高さ1 呰ほどになり、茎先に直径3 呰ほどの青紫色の頭花を1 個付けます。舌状花に短い冠毛があります。筒状花は黄色です。ヨメナには特有の香りがあり若芽を食材とし、嫁菜飯や和え物、天ぷら、汁物などにして食べます。花期は7～1 1月。



ノコンギク（野紺菊）

山野に生えるキク科シオン属の多年草。草丈は0. 5～1 呰で、茎はよく分枝し茎にも葉にも短毛が生えざらつきます。頭花は直径約2. 5 呰で、中心に黄色の筒状花があり、その周りに淡青白紫色の舌状花が1 列に並んでいます。花期は8～1 1月。



シオン（紫苑）

道端や草地に生えるキク科シオン属の多年草。庭などに植えられていたのが野生化したのでしょうかあちらこちらで見かけます。高さは2 呰ほどになり、頭花は直径3～3. 5 呰、舌状花は淡青紫色で1 列に並んでいます。筒状花は黄色です。根は咳止めなどの生薬として利用されます。花期は9～1 0月。



ヒメジョオン（姫女苑）

道端に生えるキク科ムカシヨモギ属の越年草。茎は150センチほどになり、先端に白色または淡紫色の頭花をつけます。舌状花は白色で線形、筒状花は黄色です。ハルジオンに似ていますが、花の頃に根生葉がないこと、葉が茎を抱かないこと、茎が白い髓でみたされている、などで区別できます。北アメリカ原産で、花期は6～10月。



ヒメムカシヨモギ（姫昔蓬）

道端や荒地に生えるキク科ムカシヨモギ属の越年草。明治維新の頃に北アメリカから渡来し、鉄道沿線沿いに多いので鉄道草とも呼ばれます。草丈は2メートルにも達し、葉の出る位置が135度ずつずれて出ます。光合成を効率よくするためでしょう。頭花は黄色の筒状花の周りに白い舌状花があります。花期は8～10月。



オオアレチノギク（大荒地地野菊）

道端や荒地などに生えるキク科ムカシヨモギ属の越年草。草丈は2メートルにも達し、茎に開出した毛が多いです。ヒメムカシヨモギと共に荒地の主役的な雑草です。頭花は筒状花と舌状花がありますが、舌状花は全く目立ちません。葉腋から短い枝を出すので藪くれた感じがします。花期は7～10月。



アレチノギク（荒地野草）

キク科ムカシヨモギ属の越年草。道端や荒地に生えます。草丈も50㍍ぐらいで、今はオオアレチノギクに押され気味で少なくなっています。花が咲くと茎の成長が止まり脇から横枝が多数出たり、葉が振れ波打つ傾向もあります。南アメリカ原産で、花期は7～10月。



セイタカアワダチソウ（背高泡立草）

日当たりの良い山野に生えるキク科の多年草。高さは2㍍ほどになります。茎や葉には短毛があってざらつきます。葉は披針形で先は尖り、茎先に大型の円錐花序を出し、黄色の花を多数つけます。一時は花粉症の元凶として騒がれましたが、関係ないことが判明し、今では秋の貴重な蜜源植物です。北アメリカ原産で、花期は9～11月。



オオキンケイギク（大金鶏菊）

道端や河川敷などに生えるキク科の多年草。高さ70㍍ほどになります。下部の葉はへら形で上部の葉には切れ込みが見られます。花は直径5～7㍍で、黄金色に輝き綺麗です。観賞用に導入されたのが野生化し、大群落をつくり現在では特定外来植物に指定され、栽培禁止となっています。北アメリカ原産で、花期は7～8月。



ウラシロチチコグサ

芝生などの中に生えるキク科ハハコグサ属の多年草。最近あちらこちで見かけるようになりました。茎は基部から分枝し地面を這って広がり、後に立ち上がります。茎や葉の裏に白い毛を密生しています。頭花は黄緑色であまり目立ちません。南アメリカ原産で、花期は5～6月。



ハハコグサ（母子草）

道端や畑に生えるキク科ハハコグサ属の越年草。高さ30㍍ほどになります。茎は根元で枝分かれし、葉は倒披針形で互生し、両面にびっしりと綿毛が生えているので、全体が白っぽく見えます。頭花は球形。オギョウともいい春の七草の一つです。花期は4～6月。



チチコグサモドキ（父子草擬）

空き地などに生えるキク科ハハコグサ属の越年草。高さ40㍍ほどになり、全体に綿毛が多く灰白色を帯びています。葉は長さ2～4㍍のへら形で先は丸く、茎の上部の葉腋から出た枝に淡黄褐色の小さな頭花をつけます。熱帯アメリカ原産で、花期は4～9月。



ノボロギク（野檻樓菊）

道端などに生えるキク科キオン属の1年草。草丈は30㍍ほどでよく分枝します。葉は互生し、柔らかくて不規則に裂けています。頭花は黄色の筒状花で、舌状花は見られません（まれにあります）。冠毛は白色。ヨーロッパ原産で、花期が長く、2～11月までを確認しています。



フキ（蔞）

山野に生えるキク科フキ属の多年草。葉は長い葉柄（約60㍍）があり、その先に腎円形の大きな葉をつけます。早春、花茎を地上に現し（これがフキノトウです）、その先端に散房状に花をつけます。雌雄異株で雄花は黄白色、雌花は白色。果実には白い冠毛があります。花期は3～5月。



アラゲハンゴンソウ

山地の道沿いに生えるキク科キオン属の越年草。高さは90㍍ほどになります。茎はまばらに分枝し、葉とともに粗い剛毛が密生しています。茎先に直径7㍍ほどの花をつけ、舌状花は黄色、筒状花は暗紫色です。キヌガサギクの別名があります。北アメリカ原産で、花期は7～9月。



ヒヨドリバナ（鶉花）

山野に生えるキク科フジバカマ属の多年草。ヒヨドリが鳴く頃に、花が咲くことからこの名があります。高さは2畝ほどになり、葉は対生し裏面に小さな腺点があります。頭花は散房状につき、5個ほどの白色の両性筒状花をつけます。葉にクマリンを含み乾燥すると良い香りがします。花期は8～11月。



ツワブキ（石蓼）

海岸近くの山野に生えるキク科ツワブキ属の多年草。葉に光沢のあるフキの意味で艶蓼がなまってツワブキに。舌状花も筒状花も黄色です。古くから綿毛をかぶった若い葉柄を佃煮にしました。これがキャラブキです。また葉は火にあぶって腫れ物などに張り、ウミの吸い出しに使いました。花期は9～11月。



ベニバナボロギク（紅花檻樓菊）

山野に生えるキク科ベニバナボロギク属の1年草。頭花は糸のように細い筒状花のみです。花序全体が下を向き、花冠の先がオレンジ色をしています。下部の葉は羽状に切れ込み、軟らかく、春菊に似た香りがします。南洋春菊と称して兵士さん達が食用としました。アフリカ原産で、花期は9～11月。



タカサブロウ

水田など湿地に生えるキク科タカサブロウ属の1年草。葉は対生し、披針形で緑色。茎は赤味があり、剛毛が生えています。頭花は直径約1㍉、外側の舌状花は白色、内側の筒状花は緑白色です。アメリカタカサブロウは、乾燥した所にも生えてタカサブロウより葉が細いです。熱帯アメリカ原産で、花期は8～9月。



ハキダメギク (掃溜菊)

草地に生えるキク科の1年草。発見された場所が悪く、ゴミ箱の近くだったので気の毒な名前となりました。高さ60㍉ほどになり、枝先に小さな頭花を1個つけます。頭花は直径約5㍉、舌状花は白色、筒状花は黄色。舌状花は上部が浅く3裂しています。ルーペなどで見ると綺麗です。熱帯アメリカ原産で、花期は6～11月。



センドングサ (梅檀草)

道端や河原に生えるキク科センドングサ属の1年草。茎は4稜で下部の葉は対生し、上部の葉は互生し長さ9～15㍉の1～2回羽状複葉。上部の枝先に頭花を付け、筒状花は黄色で、周りに淡黄色の舌状花をつけます。蒴果は長さ1～2㍉の線形で逆向きのトゲがありひっつき虫です。花期は9～10月。



シロノセンダングサ

荒地や河原に生えるキク科センダングサ属の1年草。コセンダングサの変種といわれる帰化植物。コセンダングサには舌状花がありませんが、シロノセンダングサの頭花には白色の舌状花が4～7個あり、筒状花は黄色です。種子はひっつき虫で、花期は9～11月。



アメリカセンダングサ

道端や荒地に生えるキク科センダングサ属の1年草。茎は4稜で角張り高さ1.5mほどになります。頭花には緑色で総苞片が外側に、その内側に小さな黄色の舌状花が、中心部には筒状花があります。そう果は扁平で幅広く2本のノギ状のトゲがあり、ひっつき虫です。北アメリカ原産で、花期は9～10月。



コセンダングサ (小梅檀草)

山野や道端に生えるキク科センダングサ属の1年草。茎は4稜。葉は対生し、上部の葉は3出複葉、下部の葉は2回3出複葉で鋸歯があります。頭花は黄色の筒状花で、茎先に1個の花を付けます。蒴果は扁平、先端が2～3股に分かれノギ状で逆向きのトゲで衣服に刺さるひっつき虫です。熱帯アメリカ原産で、花期は10～11月。



オオオナモミ

市街地や線路脇などに生えるキク科オナモミ属の1年草。高さ2 ㍎ほどになります。果苞は長さ2～2.5 ㍎の楕円形でトゲを密生しています。果苞の中には大きさの異なる大小2個の種子があり、発芽時期をずらしています。また果苞は動物などにくっついて運ばれるひっつき虫です。ユーラシア～北アメリカ原産で、花期は8～11月。



オオブタクサ (大豚草)

河川敷などに生えるキク科ブタクサ属の1年草。ブタクサと並び花粉症の元凶とされています。高さは3 ㍎にもなり、葉は長い柄があって対生し、掌状に3～5裂します。総状花序に雄花を多数付け、大量の花粉を飛ばします。雌花は基部にあります。クワモドキとも呼びます。北アメリカ原産で、花期は8～9月。



ノアザミ (野薊)

山野に生えるキク科アザミ属の多年草。高さ1 ㍎ほどになります。根生葉は花のころにも残り基部は茎を抱きます。茎葉は互生し、長楕円形で、先端はトゲとなります。頭花は4～5 ㍎で紅紫色の筒状花のみです。枝の先端に直立して付きます。春から初夏のアザミはこのノアザミだけです。花期は5～6月。



シロバナタンポポ（白花蒲公英）

西日本の野原に多いキク科タンポポ属の多年草。花茎は高さ40㍎ほどになり、先端に白色の頭花を1個付けます。頭花は径3.5～4.5㍎、白い舌状花のみで筒状花はありません。白色のタンポポは本種のみです。葉や茎をちぎると白い乳液が出てきます。花期は4～5月。



セイヨウタンポポ（西洋蒲公英）

道端や草地に生えるキク科タンポポ属の多年草。葉は羽状深裂から深い鋸歯まで変化があります。頭花は黄色でやや大きく3～5㍎の舌状花のみで、筒状花はありません。総苞の外片が反り返っています（これが特徴です）。最近では温暖化で年中花をつけています。ヨーロッパ原産で、花期は3～10月。



キツネアザミ（狐薊）

道端や草原に生えるキク科キツネアザミ属の越年草。花の姿がアザミに似ていて騙されることからキツネアザミと呼ばれています。葉にトゲはありません。茎の上部で枝を分け多数の紅紫色の頭花を上向きにつけます。外側の総苞片にはトサカ状の突起が目立ちます。若葉は餅に入れて食べられます。花期は5～6月。



ジシバリ(地縛り)

山野の日当たりの良いところに生えるキク科ニガナ属の多年草。葉は円形か楕円形で、長い柄を持ち、長さ7～20㍎で、薄く軟らかいです。花茎は6～10㍎で細く根生葉の間から立ち上がり、先端に2㍎ほどの黄色い舌状花だけの花をつけます。花期は4～6月。



オオジシバリ (大地縛り)

農道や道端に生えるキク科ニガナ属の多年草。葉はへら形、長い葉柄があります。花茎は高さ10～30㍎で、先端に黄色の舌状花からなる頭花を2～3個つけ、花径は3㍎ほどです。蒴果は長さ7～8㍎、冠毛は7㍎ほどで白く、風に乗って分布を広げる風媒花です。ジシバリより大きいのでこの名があります。花期は4～5月。



メリケントキンソウ

草地などに生えるキク科タカサゴトキンソウ属の1年草。地面を這うように生え、葉には長い柄があって細かく裂けています。葉の付け根に淡黄色の小さな花を付けます。花の根元にトゲがあって引き抜こうと触るとトゲがささりとても痛いです。花期は4～5月。



オニタビラコ（鬼田平子）

道端や庭の隅などに生えるキク科オニタビラコ属の越年草。高さ1 ㍎ほどになり、根生葉はロゼット状です。葉は倒披針形で羽状に深裂します。莖葉は少なく上部では小さいです。黄色の頭花は7～8 ㍎で散房状に多数つけます。舌状花は20個ほどあります。冠毛は白色。花期は5～10月。



オニノゲシ（鬼野罌粟）

荒地、道端、畑などに生えるキク科ノゲシ属の越年草。草丈は1 ㍎ほどになり、莖は中空で稜があります。葉は長さ10～25 ㍎、基部は莖を丸く抱き、葉には鋭い鋸歯があります。頭花は直径約2 ㍎。花柄と総苞片に腺毛があります。ヨーロッパ原産で、花期は4～10月。



ノゲシ（野罌粟）

畑や道端などに生えるキク科ノゲシ属の越年草。莖は太くて軟らかく中空です。葉は柔らかく、不規則な羽状に切れ込み、基部は莖を抱いています。莖や葉を切ると白い汁が出ます。頭花は黄色で径2 ㍎ほど。舌状花が整然と並んでいます。花期は4～7月。



アキノノゲシ（秋の野罌粟）

山野に生えるキク科アキノノゲシ属の越年草。高さ2㍎ほどになります。和名はハルノノゲシに似て、秋に花をつけることによります。葉は互生し、質は柔らかく、基部は茎を抱きません。茎も葉も無毛で、切ると白い乳液が出ます。円錐花序に淡黄色で約2㍎の頭花を上向きつけます。花期は8～10月。



ヒャクニチソウ（百日草）

花壇や道端などに生えるキク科ヒャクニチソウ属の1年草。花は初夏から秋口まで咲きます。夏の暑さにも強く、しかも花持ちがよいので神さんや仏さんの花として植えられます。花期が長いので百日草の名があり、通常ウラシマとも呼びます。各種の園芸品種があります。メキシコ高原原産で、花期は6～11月。



キキョウ（桔梗）

日当たりの良い草地に生えるキキョウ科の多年草。「秋の七草」の一つで昔から親しまれてきました。山上憶良が秋の野の花を詠んだ中に「…また藤袴朝貌の花」とありますが、この朝貌は現在の桔梗のことだと云われています。花は7月頃から直径4～5㍎で、青紫色の花を開きます。園芸種も多いようです。花期は7～9月。



キキョウソウ（桔梗草）

日当たりの良い空き地などに生えるキキョウ科の1年草。高さ80㍎ほどになります。花がだんだん咲き上がっていくので、ダンダンキキョウともいいます。葉は円形で無柄、ハート形で基部は茎を抱いています。花は葉腋に1～2個付き、花冠は直径2㍎弱で、鮮やかな青紫色です。北アメリカ原産で、花期は5～8月。



ホタルブクロ（蛍袋）

山野に生えるキキョウ科ホタルブクロ属の多年草。高さ80㍎ほどになります。根生葉は長い柄があって丸いですが、莖葉は柄が無く長さ5～8㍎で、莖とともに粗い毛があります。花冠は淡紅紫色で長さ4～5㍎で鐘形の花を下向きにつけます。花期は6～7月。



カラスウリ（烏瓜）

林縁に生えるウリ科カラスウリ属のつる性多年草。葉は6～10㍎の卵心形または腎心形で3～5裂し、粗毛が密生。花は夕方開き、翌朝しぼみます。果実は5～7㍎の楕円形で朱赤色に熟します。種子は柿の種に似ています。果実は朱赤色で綺麗ですが、徐々に褐色に変わります。花期は8～9月。



ソクズ

山野に生えるスイカズラ科ニワトコ属の多年草。葉は大型の奇数羽状複葉で対生しています。7～8月、茎先に白い小さな花をつけます。花序の所々に黄色の蜜を貯める杯状の腺体があります。果実は直径約4ミリの球形で赤く熟します。葉がニワトコに似ているのでクサニワトコとも呼ばれます。



ツルニチニチソウ

キョウチクトウ科ツルニチニチソウ属のつる性常緑多年草。道端に生え、葉は対生し、卵形で先端は尖り光沢があります。茎に直立茎と匍匐茎があり、花は直立茎に春から初夏にかけて淡紫色の花をつけます。花径は5センチ。花弁は5枚。耐暑性、耐寒性があり繁殖力旺盛です。アルカロイドを含み有毒。ヨーロッパ原産です。



アカネ (茜)

山野で普通に見られるアカネ科アカネ属のつる性多年草。茎の断面は四角形で下向きのトゲがあり、絡みつきます。葉は4輪生しています。アカネの乾燥した根を臼でつき熱湯を加えて煮だした液で染めたのが茜染。また、アカネの根は利尿や止血などの薬効があります。花期は8～10月。



メリケンムグラ（米利堅葎）

草地に生えるアカネ科オオフタバムグラ属の1年草。茎は4稜で赤みを帯び、稜には硬い毛が生えています。葉は披針形で対生し、表面は濃い緑色で革質。花は筒型、白色で白い毛が生え、先端が4裂しています。北アメリカ原産で、花期は7～10月。



ヤエムグラ（八重葎）

藪や荒地に生えるアカネ科ヤエムグラ属の越年草。高さ60～90㎝になります。茎は4稜、稜に下向きでトゲ状の硬い毛があります。葉は広線形で6～8個が輪生状についています。輪生している葉の茎の両端を切り、衣服に付けてワッペンとして子供の頃遊んでいました。果実は「ひつつき虫」です。花期は5～6月。



ヘクソカズラ（屁糞葛）

山野や荒地に生えるアカネ科ヘクソカズラ属のつる性多年草。全体に悪臭のあることから屁糞葛と呼ばれています。また花の姿からヤイトバナとも呼びます。葉は対生し葉柄は2～3裂、付け根に托葉があります。秋に黄色で光沢のある球形の実をつけます。サオトメカズラ（早乙女葛）の別名もあります。花期は8～9月。



クワクサ（桑草）

道端や畑などに生えるクワ科クワクサ属の1年草。和名は葉が桑に似ていることによります。茎は高さ30～80㍎。葉は互生し卵形で先は尖り、葉質は薄く、表面は毛があってざらつきます。葉腋の集散花序に雄花と雌花を混生しています。根がしっかりして、抜くのにかのいる畑の雑草です。花期は9～10月。



オオバコ（大葉子）

道端に生えるオオバコ科オオバコ属の多年草。葉は全て根生し、卵形～広楕円形。数本の脈が目立ち葉面が波打っています。花茎に小さな花がびっしりとつき、花茎の下部には実が、中部には雄性期の花、上部には雌性期の花が見られます。花は下から上に咲き上がります。花期は4～9月。



ツボミオオバコ（蕾大葉子）

道端や荒地に生えるオオバコ科オオバコ属の越年草。花が開かず蕾のままで種子をつくるのでこの名があります。高さは30㍎ほどで、全体に白い毛で覆われています。荒地地に群生する事が多く、北アメリカ原産で、花期は5～8月。



キツネノマゴ（狐の孫）

野原や道端などに生えるキツネノマゴ科キツネノマゴ属の1年草。高さは40㍍ほどになります。葉は対生し、長楕円形で長さ2～5㍍。茎の断面は六角形をしています。枝の先に穂状の花序をつけ、淡紅紫色の唇形の花をつけます。下唇にある白色の斑紋は綺麗です。花期は8～9月。



ナガミヒナゲシ（長実雛罌粟）

道端や荒れ地に生えるケシ科の1年草。高さ20～60㍍。花は4月頃咲きますが、蕾の時は下向きで、咲くと橙色の花を上向き～横向きに開きます。花径は4～6㍍です。蒴果は長蛇円形で長さ2～3㍍、頂部に8本ほどの放射線状の柱頭が見え、中には小さな黒色の種子が沢山入っています。ヨーロッパ原産で、花期は4～5月。



ムラサキケマン（紫華鬘）

平地や山野で日陰の湿ったところに生えるケシ科キケマン属の多年草。茎や葉を傷つけると悪臭がします。茎は高さ20～50㍍。葉は2～3回羽状に細かく裂け、裂片はさらに深く切れ込んでいます。花は3月頃、紅紫色で長さ1.2～1.8㍍の筒状で、先は唇形となった花を茎の上部に総状につけます。花期は4～6月。



マツバウンラン

海岸や草原に生えるゴマノハグサ科ウンラン属の越年草。茎は束生し、高さ30～50㍎葉は線形で幅約2㍍。花は唇形で青紫色、総状につきます。北アメリカ原産で、花期は4～5月。



ウリクサ (瓜草)

畑や庭の隅など、やや湿った所に生えるゴマノハグサ科ウリクサ属の1年草。果実の形がマクワウリに似ているのでこの名があります。花は8月頃から咲き始め、上部の葉腋に1個ずつ淡紫色の唇形の花を付けます。花期は8～10月。



キンギョソウ

花壇などに植栽されるゴマノハグサ科キンギョソウ属の越年草。長洲町が金魚の産地であることから、長洲町の町花に指定されています。高さは30～100㍎で矮性種から中高性種まであります。夏に唇形花を付け花の色も白、黄、桃、赤、橙など色々あります。夏の季語ですが、地中海沿岸原産で、花期は長いです。



タチヌノフグリ（立犬の陰囊）

空き地や道端に生えるゴマノハグサ科クワガタソウ属の越年草。茎は直立して15㍍ほどになります。葉は対生し、1㍍前後の広卵形で、上部の葉は次第に小さくなって苞となります。4月頃、上部の葉腋に青色の小さな花を付けます。花径は約4㍍です。ヨーロッパ原産で、花期は4～6月。



オオイヌノフグリ（大犬の陰囊）

野原に生えるゴマノハグサ科クワガタソウ属の越年草。菜園の雑草、花卉に触るとパラパラ落ちるのでハコボレともいいます。葉は下部で対生、上部で互生し、卵状広楕円形で鋸歯があります。花は3月頃から葉の脇に1個づつ花をつけ、美しいルリ色をしています。ユーラシア～アフリカ原産で、花期は3～5月。



ムシクサ（虫草）

ゴマノハグサ科クワガタソウ属の1年草。湿地などに生えるといいますが、畑にも生え群生しています。高さ10～20㍍。葉は披針形で下部で対生上部が互生しています。花は上部の葉腋にわずかに淡紅色を帯びた白色で径2～3㍍、4弁花の花を付けます。花期は4～5月。



カワヂシャ（川ぢしゃ）

川岸や湿った所に生えるゴマノハグサ科クワガタソウ属の越年草。葉は対生し、長さ4～8㎝の披針形で、鋸歯があり、基部は茎を抱きます。4月頃、葉腋から総状花序を出し、直径3～4㎝の小さな花をつけます。花冠は白色、4裂し皿状に開きます。若芽を刺身のつまにして食べます。花期は4～5月。



フラサバソウ

道端や畑に生えるゴマノハグサ科の越年草。草丈10～30㎝。地を這うように伸び、先端が立ち上がります。葉は卵円形で5～7個の大きな鋸歯があり、茎、葉、葉柄に毛が多いです。花は2月頃から咲き始め青色でオオイヌノフグリに似ています。繁殖力旺盛でやっかいな雑草です。ユーラシア原産で、花期は2～5月。



トキワハゼ（常磐はぜ）

道端や畑などに生えるゴマノハグサ科サギゴケ属の1年草。高さ20㎝程になり、ムラサキサギゴケに似ていますが匍枝を出しません。花は唇形花で上唇は紫色、下唇は淡紫色を帯びた白色で黄色～赤褐色の斑紋があります。ほぼ1年中花が見られ、果実がはぜることから、この名があります。花期は4～11月。



オカトラノオ（岡虎の尾）

日当たりの良い草原に生えるサクラソウ科の多年草。花は6月頃、高さ80㍎ほどの茎の頂きに、先細りに長く伸びる花穂に白い5弁花を沢山つけます。花穂は長さ10～20㍎、花穂が虎の尻尾のように見え岡に生えるのでこの名があります。雄しべと花冠の裂片が対生しています。サクラソウ科の特徴です。花期は6～7月。



ルリハコベ（瑠璃繁縷）

海岸近くの道端などに生えるサクラソウ科の1年草。和名はハコベに似て瑠璃色の花を付けることによります。茎は4稜でよく分枝して地を這い、上部は斜上します。4月頃、上部の葉腋に1個の花を付けます。花は直径1～1.3㍎で濃青赤色、中心部は濃紅色。葯は黄色で目立ち綺麗です。ヨーロッパ原産で、花期は3～5月。



コナスビ（小茄子）

平地から山地の道端に生えるサクラソウ科オカトラノオ属の多年草。葉は対生し、長さ1～2.5㍎の広卵形。先は短く尖っています。5月頃、葉の脇に黄色の花を1個ずつ開きます。花冠は5～7㍎で、5深裂しています。花柄は花が終わると下に曲がります。和名は果実が茄子に似て小さいのでこの名があります。花期は5～6月。



ショウブ（菖蒲）

水辺に生えるサトイモ科ショウブ属の多年草。葉をもむと芳香があります。5月の端午の節句には菖蒲の葉を屋根に飾ったり菖蒲湯などに使います。葉は長さ0.5～1㍍で中脈（中央脈のこと）が目立ちます。根茎は乾燥し、袋に入れ入浴剤として神経痛やリュウマチの治療に使われます。花期は5～7月。



ムサシアブミ

海岸に近いやや湿った林内に生えるサトイモ科テンナンショウ属の多年草。葉は2個付き、小葉は3枚あります。葉柄は15～30㍍。葉柄の間から葉より低い花茎を出し、仏炎苞に包まれた肉穂花序をつけます。武蔵の国の鎧（アブミ）に似ているのでこの名があります。花期は3～5月。



マムシグサ（蝮草）

湿った林内に生えるサトイモ科テンナンショウ属の多年草。偽茎は花茎や葉柄より長く、普通雲状紋があります。葉は2個つき小葉が多数鳥足状につきます。花序は葉より高く、仏炎苞は葉と同時に開き、緑色～紫色です。雌花は成熟すると赤くなります。花期は4～6月。



ウチワサボテン

道脇に生えるサボテン科オブンティア属の多年草。葉はなく茎は平たい楕円形で下部の茎は丸いです。茎にはしっかりしたトゲがあります。夏、茎の縁に艶のある黄色の花をつけます。果実は赤紫色に熟し、美味とはいえませんが食べられます。メキシコ原産です。



ホトケノザ (仏の座)

シソ科オドリコソウ属の多年草。茎は細く基部で枝分かれし、高さ30㍍ほどです。葉は半円形で縁に鈍鋸歯があります。花は2月頃から葉の上部の脇に紅紫色の唇形花を数個付けます。閉鎖花を付ける事が多いです。春の七草のホトケノザは本種ではなく、キク科ココニタバヒラコです。花期は2～6月。



イヌコウジュ (犬香薷)

山野や道端などに生えるシソ科イヌコウジュ属の1年草。高さ20～60㍍になります。茎は四角で直立し、細毛が生え、しばしば紅紫色を帯びています。葉は長楕円形で1～2㍍の葉柄があります。9月頃枝先に花穂を出し、2～4㍍の花柄の先に、淡紫色で小型の唇形花を沢山つけます。花期は9～10月。



トウバナ（塔花）

やや湿り気のある所に生えるシソ科トウバナ属の多年草。高さ15～30㍍で、葉は対生し、卵形で、葉柄があり、縁には浅い鋸歯があります。花は輪状に数段つきます。花冠は長さ5～6㍍で、淡紅色、萼には短毛が生えています。和名は塔花で、花穂の形によります。花期は6～7月。



キラソウ（金瘡小草）

道端や畑などに生えるシソ科キラソウ属の多年草。葉は対生し、上部の葉は小型です。4月頃から葉の脇に濃紫色の花をつけます。薬草で、薬効は鎮咳、去痰ですが、関節などが腫れて痛むときに、これを飲むと痛みが取れるというので「外科倒し」ともいいます。別名：ジゴクノカマノフタ。花期は3～5月。



オドリコソウ（踊り子草）

山野や道端に生えるシソ科の多年草。茎は根元から群がって直立し、30～50㍍になります。花は4月頃から、白色または淡紅紫色の唇形花を上部の葉の脇に輪生します。上唇はカブト型、下唇は3裂し中央裂片が大きく前方に突出し、2浅裂しています。和名は花の形が笠をかぶった踊子の姿を思わせることから。花期は3～6月。



ヒヨドリジョウゴ（鶯上戸）

林縁に生えるナス科の落葉つる性多年草。葉は互生し、茎や葉に柔らかい毛が密生（茎に直角に出ている）しています。花は集散花序に白色の反り返った5弁花を付けます。果実は液果で径8ミリのほどで赤く熟し光沢があります。花期は7～9月。



イヌホオズキ（犬酸漿）

畑や道端などに生えるナス科の1年草。高さ60センチほどになります。葉は卵形で長さ6～10センチあり、縁に波形の鋸歯があり、質はやや厚いです。花は節の間から出て、4～10個の花をつけます。花は6～7センチで白色。花が終わると7～10センチの艶のない黒い球形の果実が垂れます。花期は8～10月。



センナリホオズキ（千成酸漿）

道端や畑の隅に生えるナス科ホオズキ属の1年草。小さな果実が沢山つくのでこの名があります。高さは30センチほどになり、葉腋に花柄を出して淡黄色の小さな花を下向きに付けます。果実は2.5センチの袋状の萼に包まれ、熟しても緑色のままで赤くなりません。別名：ムタホオズキ。熱帯アメリカ原産で、花期は8～10月。



ホオズキ（酸漿）

人里近くで栽培されるナス科ホオズキ属の多年草。高さ80㍍ほどになります。花は淡黄白色の花を下向きに付けます。花の後、萼が著しく大きくなり、緑色から赤橙色に熟し目立ちます。中の液果も直径1.5㍍ほどの球形で赤く熟します。和名は熟した実を鳴らす時に頬をつくので等、多数の説があります。花期は6～7月。



ケチョウセンアサガオ

道端などに生えるナス科チョウセンアサガオ属の多年草。枝をよく分枝し、高さ1㍍ほどになります。花は夕方から咲き始め翌朝午前中にはしぼみ、花径は10～13㍍、へりに5個の小さな尾状突起があり、白色のロート形で蒴果は球形でトゲが多いです。別名：アメリカチョウセンアサガオ。花期は7～10月。



シュウカイドウ（秋海棠）

湿り気のある林野に生えるシュウカイドウ科シュウカイドウ属の多年草。高さ50㍍ほどになります。葉は縁に細かい鋸歯があり、基部は心形です。葉柄や花柄は赤みを帯びています。花は淡紅色で雄花が先に咲き、次いで雌花が咲きます（円内の花です）。中国原産で、7月頃から咲きます。



ヤナギハナガサ

道端などに生えるクマツツラ科ベーバナ属の多年草。高さ1.5mほどになり、茎はざらつきます。葉は対生し披針形で鋸歯があり茎を抱いています。花は筒状で、先は5裂、紫紅色で半球状に集まって咲きます。仲間のアレチハナガサよりはるかに綺麗です。南アメリカ原産で、花期は5～6月。



アレチハナガサ

荒地や道端に生えるクマツツラ科クマツツラ属の多年草。高さ1.5mほどになります。茎は四角形で硬く、白色の髄が詰まっています。花序は長く、上部に小さな薄紫色の5弁花を付けます。道端の困った雑草です。往来の激しい道路や荒地を中心に生育地域を拡大中です。南アメリカ原産で、花期は8～11月。



ハゼラン

海岸や道端に生えるスベリヒユ科ハゼラン属の1年草。観賞用として輸入されたのが雑草化しました。葉は楕円形で無毛、原産地の熱帯アメリカでは野菜として栽培し、茹でて食べるそうです。午後3時に咲くのでサンジソウと呼ばれています。種子からの繁殖で増えます。熱帯アメリカ原産で、花期は7～9月。



キュウリグサ（胡瓜草）

道端や庭などに生えるムラサキ科キュウリグサ属の越年草。葉を揉むとキュウリの匂いがするので、この名があります。高さ30㍉ほどになります。莖先に「サソリ形花序」を出し直径約2㍉の淡青紫色の花を次々に開きます。似た花にワスレナグサがあります。花期は3～5月。



コウホネ（河骨）

沼などに生えるスイレン科コウホネ属の多年草。葉っぱには2型あって、水中の葉は細長い膜質、水上に出る葉は長卵形で基部が深く三角形に入り込み、長さ30㍉ほど。花は長い花柄に1個、黄色で直径4～5㍉、外側のお椀状のものは萼片で5個あり、花弁は萼片の中のへら形のもので。花期は6～9月。



ハマヒルガオ（浜風顔）

海岸の砂地に生えるヒルガオ科ヒルガオ属のつる性多年草。代表的な海浜植物。葉は互生、3～5㍉の円腎形で基部は深い心形で、厚くて光沢があります。花は直径4～5㍉の漏斗型で淡紅色。萼の基部に大きな苞が2個あり、萼を包んでいるのが特徴です。花期は5～7月。



アサガオ（朝顔）

垣根やフェンスに絡ませたり、鉢植えにして観賞用として植えられているヒルガオ科アサガオ属の1年草。花の色は青、紫、紅、薄茶、白など、さらに覆輪や絞り模様など様々です。野生化したのもあり道端などで青や白の花を見かけます。朝顔の種は「牽牛子」といって便秘薬に使われます。インド原産で、花期は8月。



ホシアサガオ

道端などに生えるヒルガオ科サツマイモ属の1年草。小さな花が余りにも沢山咲くので、調べるとホシアサガオでした。葉は浅く3裂し基部は心形。花は直径1.5～2㍍で薄紅色で花心になるほど色が濃いです。似た種にマメアサガオがありますが、雄しべに赤味があります。北アメリカ原産で、花期は9～10月。



ヒルガオ（昼顔）

日当たりのよい野原や道端などに生えるヒルガオ科ヒルガオ属のつる性多年草。夏の日盛りに花を咲かせるところから、朝顔に対し昼顔の名があります。葉は互生し長さ10㍍ほどのほこ形～矢じり形で、基部は斜め方向に張り出します。淡紅色の花を1個つけ、花冠は径約5㍍の漏斗形です。花期は6～8月。



ヨルガオ（夜顔）

ヒルガオ科サツマイモ属のつる性1年草。花は漏斗形で夕方から咲き始め、翌朝にはしぼみます。白色で直径1.5㍍ほどの大輪の花をつけます。ヨルガオのことを夕顔という人も多いようですが、ユウガオはウリ科でかんぴょうの原料となります。熱帯アメリカ原産の帰化園芸種で、花期は8～9月。



アメリカネナシカズラ

ハマヒルガオやハマゴウなどに寄生するヒルガオ科のつる性1年生寄生植物。蔓は細く径1ミリの内外で淡黄赤色、蔓の途中に寄生根があり、寄主の体内に伸ばし養分を吸収します。花は所々に固まって付き、花冠は白色で5裂、裂片は三角形です。ハマゴウなどに寄生するとハマゴウは枯死します。北アメリカ原産で、花期は7～10月。



ルコウソウ（縷紅草）

花壇や庭先に観賞用として植えられているヒルガオ科ルコウソウ属のつる性1年草。葉が糸状で紅色の花が咲くのでこの名があります。帰化植物で観賞用として輸入されたのが一部野生化しています。花は8月頃に咲き、高杯形で星形に開き、雄しべと雌しべが花冠から突き出しています。花期は8～10月。



リュウキュウアサガオ

ヒルガオ科サツマイモ属の多年草。沖縄や南西諸島などに自生するアサガオで観賞用に内地で植えられています。葉は3裂し中央の裂片は先端が尖り、基部は心形です。花は直径10㍉ほどの青紫で赤紫の線があります。花が咲いても種子が出来ないので挿し木で増やします。宿根で強健です。花期は7～10月。



アメリカアサガオ

道端などに生えるヒルガオ科サツマイモ属の1年草。葉が3～5深裂しています。花は直径3㍉ほど淡青色～淡紅色の漏斗形。萼片が細く先端部が外側に反り返っているのが特徴です。昼頃までも咲いています。円内の写真は葉が深裂しない丸い形のマルバアメリカアサガオです。熱帯アメリカ原産で、花期は8～10月。



ガガイモ

道端に生えるガガイモ科ガガイモ属のつる性多年草。茎や葉柄の切り口から白い乳液が出ます。ガガイモは雄しべと雌しべが合着してずい柱を作ります（これはガガイモ科の特徴です）。種子に長い毛があって（種髪という）、昔これを集めて朱を染み込ませて印肉（朱肉）を作るのに用いられました。花期は8月。



フウセントウワタ（風船唐綿）

道端や畑などに生えるガガイモ科フウセントウワタ属の多年草。草丈は2 ㍎ほどになります。葉は柳の葉に似て細長く、6月頃葉腋に花茎を伸ばし小さな乳白色の花が下向きに咲きます。果実は9月頃に風船のように膨れ表面にはトゲ状の突起があり、熟すと綿毛のついた種子が出てきます。南アフリカ原産で、花期は6～7月。



ギンリョウソウ（銀竜草）

湿気が多い腐植土の上に生えるイチャクソウ科ギンリョウソウ属の腐生植物。葉緑素を持たない白色の植物です。高さ8～15 ㍎ほどで、白色の鱗片葉を付け、花はやや下向きに咲きます。ユウレイタケ、ホトケグサ、プッポウソウなど色々な呼び名を持っています。花期は4～5月。



ハマウド（浜独活）

海岸に生えるセリ科シシウド属の多年草。別名オニウドとも呼ばれ高さ1.5 ㍎ほどになります。葉は大型で、1～2回3出羽状複葉で葉柄の基部が膨らんで鞘状になっています。6月頃枝先に複散形花序を出して白色の小さな花を多数つけます。果実は扁平な翼果です。花期は4～6月。



セリ（芹）

小川や湿地などに生える高さ20～50㍎のセリ科セリ属の多年草。葉は1～2回3出複葉、小葉は卵形で縁に粗い鋸歯があります。枝先から複散形花序を伸ばし、白色の小さな花を多数つけます。花弁は5枚。春の七草の一つです。新芽は柔らかいですが、花の咲く頃は硬くて食べられません。花期は7～8月。



マツバゼリ

畑や草地に生えるセリ科マツバゼリ属の1年草。茎はよく分枝して、高さ70㍎ほどになります。葉を揉むとセロリに似た匂いがします。熱帯アメリカ原産で世界中に広く分布している畑の雑草で、家畜には有毒です。花期は春から夏。



ミツバ（三葉）

山野の湿り気のある林内に生えるセリ科ミツバ属の多年草。高さ30～80㍎。葉は3出複葉。小葉は卵形で先は尖り、縁には重鋸歯があります。枝先に複散形花序を出し、白色の小さな花をつけます。果実は4～5㍎の長楕円形。葉を揉むと芳香があり、香りが良いので吸い物などに使います。花期は6～8月。



ヤブニンジン（藪人參）

山野の木陰や竹藪などに生えるセリ科ヤブニンジン属の多年草。高さ30～60㎝になり、葉は2回3出複葉、小葉は卵形で、薄くて軟らかいです。葉がニンジンに似て藪に生えるのでこの名があります。莖先から複散形花序を出し、白色の小さな花を開きます。花期は4～5月。



ヤブジラミ（藪虱）

野原や道端に生えるセリ科ヤブジラミ属の越年草。花は枝先の複散形花序に小さな白色の5弁花をつけます。果実は卵状楕円形で、長さ約3㎜ほど、トゲ状の毛があり、藪を歩いていると衣服に付着するのでこの名があります。植物が種子を移動、散布する手段の一つで「ひつつき虫」と呼びます。花期は5～7月。



ツボクサ（壺草）

道端や庭などに生えるセリ科ツボクサ属の多年草。莖は地面を這い、葉は2.5～5㎝の腎円形で基部は心形で縁に浅い鋸歯があります。壺は庭のことで庭にあるので壺（坪）草です。花期は5～8月。



チドメグサ（血止草）

道端や庭の隅などに生えるセリ科チドメグサ属の多年草。地面を這い、葉は直径1～1.5㍉円形で、基部は心形です。葉を揉むと芳香があります。葉を止血に用いたのがこの名があります。花期は6～10月。



コマツヨイグサ（小待宵草）

海岸、河原、空き地などに生えるアカバナ科マツヨイグサ属の1年草。茎は分枝して地上を這いマット状に広がります。花は黄色で直径2～3㍉。夕方咲いて翌朝にしぼみ黄赤色となります。乾燥にも強いです。海岸にはコマツヨイグサを母種とするオオバナコマツヨイグサもあります。北アメリカ原産で、花期は5～10月。



オオマツヨイグサ（大待宵草）

荒地や山野に生えるアカバナ科マツヨイグサ属の越年草。観賞用として栽培されていたのが、野生化したものです。茎丈150㍉程になり、茎には硬い毛があります。花は夏、8㍉ほどの黄色の4弁花で夜咲いて、午前中にしぼみます。果実は円柱状です。北アメリカ原産で、花期は7～9月。



ヒシ（菱）

河川や池などに生えるヒシ科の1年草。果実や葉が拉げた様な形からヒシと呼びます。また葉の形から菱形という語が生まれました。花は8月頃から咲き始め、直径約1匁の白色。花弁は4枚。一日花です。果実は核果で両端が尖ります。果実は蒸かして食べると美味しく栗に似た味がします。花期は7～10月。



オオフサモ

水田脇の水路や河川に生えるアリノトオグサ科フサモ属の多年生水生植物。茎は長さ1尺ほどになります。水上に伸びた茎には糸状に細裂した無柄の葉を3～7枚輪生し立ち上がります。南米ブラジル原産で、「特定外来生物」に指定され駆除対象となっています。



アカバナユウゲショウ（赤花夕化粧）

草原や道端などに生えるアカバナ科マツヨイグサ属の多年草。花の名の由来は、ピンク色の花を夕方開くことによります。花は4～6月頃咲き、ピンク色の4弁花。花径は約2匁。花弁に赤いスジがあります。名前は立派ですが直根形の根を持ち、繁殖力旺盛で菜園の雑草。南アメリカ原産です。



スミレ（葶）

日当たりの良い道端や草原に生えるスミレ科スミレ属の多年草。高さは10㍎ほどです。葉は束生し立ち上がります。花は径1.2～2㍎で淡紫色や青味のある紫色など変化が多いです。似た種にノジスミレがありますが側弁に突起毛があり、葉柄に翼があるので見分けられます。花期は3～5月。



タチツボスミレ（立坪葶）

山野に生えるスミレ科スミレ属の多年草。根生葉は長い柄があり心形。上部の茎葉は三角形となります。托葉は披針形で、縁はクシの歯状に深く裂けます（ツボスミレにはない）。花は径1.5～2㍎で、普通は淡紫色ですが変化が多いです。距は長さ6～8㍎。唇弁に紫の筋があります。花期は4月。



ミソハギ（襖萩）

山野に生えるミソハギ科ミソハギ属の多年草。高さ0.5～1㍎で湿地を好みます。花は紅紫色で直径約1.5㍎、花弁は4～6枚。お盆の頃に咲くので盆花として仏前に供えます。雄しべの長さが長・中・短3つの形があります。和名は溝萩または襖萩からきたとの説があります。花期は7～8月。



ヒメハギ（姫菘）

日当たりの良い乾いた草原などに生えるヒメハギ科ヒメハギ属の多年草。和名はハギの花に似て、全体が小さいことにより。小さくて目立ちませんが、花は筒状で淡紅色、先端は房状となり綺麗です。花期は4～5月。



コケオトギリ（苔弟切）

休耕田などに生えるオトギリソウ科ヒメオトギリ属の多年草。茎は四角形で、高さ10釐弱。茎の下部が赤色を帯びています。葉は5～6釐の卵形で対生。日に透かしてみると明点が散らばっています。茎先に黄色の5弁の花をつけます。花径は5～8釐。花期は5～7月。



イチビ

荒地や畑などに生えるアオイ科イチビ属の1年草。繊維をとるために中国経由で渡来しました。今では野生化し畑の強害草となっています。花は上部の葉腋につき、黄色で直径約2釐の花をつけ、果実は10～15個の分果からなっています。インド原産で、花期は6～9月。



トウダイグサ

畑や道端に生えるトウダイグサ科の越年草。高さ40㌫ほどになり、枝を切ると白い乳液が出ます。莖先に大型の葉を5個輪生し、葉腋から放射状に枝を出します。花は枝先に2～3個の総苞葉に抱かれるように杯状花序がつきます。腺体は楕円形です。花期は4～6月。



ニシキソウ (錦草)

畑や空き地などに生えるトウダイグサ科の1年草。長さ10～25㌫。莖は赤みを帯び、よく分枝して地を這います。葉の表面に斑紋はありません（斑紋があるのがコニシキソウ）。花は杯状花序の腺体の下部にエプロンのような付属体がつくのが特徴です。北アメリカ原産で、花期は7～10月。



コニシキソウ (小錦草)

道端や畑で見られるトウダイグサ科トウダイグサ属の1年草。莖は長さ20㌫ほどで、地を這って広がります。莖を切ると白色の乳液が出ます（これはトウダイグサ属に共通の特徴です）。葉に斑紋があります。北アメリカ原産で、花期は6～9月。



オオニシキソウ（大錦草）

畑や道端に生えるトウダイグサ科の1年草。茎は淡紅色を帯びて直立または斜上し、高さ40㍍ほどになります。葉は対生し2～3㍍の長楕円形、基部は左右不揃いです。茎を切ると白い乳液が出ます。花は杯状花序にまばらにつきます。腺体は円形です。アメリカ原産で、花期は6～10月。



ショウジョウソウ

道端などに生えるトウダイグサ科ショウジョウソウ属の1年草。茎は直立して高さ1㍍ほどになります。茎を切ると白い乳液が出ます。葉がひょうたん形に不規則にくびれ、8月頃から茎の上部に杯状花序を付け、花の周りの苞や葉が赤や淡紅色になり綺麗です。北アメリカ南部原産で、花期は8～10月。



エノキグサ（榎草）

畑や道端に生えるトウダイグサ科エノキグサ属の1年草。高さ30～50㍍になります。葉の形がエノキに似ているので、この名があります。葉は互生し、長さ3～8㍍の長楕円形～広披針形で鈍い鋸歯があります。花序は葉の脇から出て、上部に雄花が穂状につき、その基部に総苞に包まれた雌花がつきます。花期は8～10月。



コミカンソウ（小蜜柑草）

畑や道端に生えるトウダイグサ科の1年草。草丈5～15㍎。茎は赤みを帯び、多くの枝を伸ばしその両側に長さ1㍎前後の楕円形の葉を互生して付けます。葉は睡眠運動をします。花は1㍎ほどで雄花は葉軸の先端の方に、手前に雌花が並びます。和名は果実を小さなミカンに見立てたものです。花期は7～10月。



ヤブガラシ（藪枯らし）

荒地などに生えるブドウ科ヤブガラシ属のつる性多年草。5小葉からなる鳥足状複葉です。花は直径約5㍎。藪を枯らすほど盛んに繁茂し、手入れの悪い貧乏くさいところに生えるのでピンボウカズラともいいます。花期は6～8月。



ゲンゲ（紫雲英・蓮華草）

水田の緑肥として栽培されたのが野生化しているマメ科ゲンゲ属の越年草。名は蓮華草で花序の形を蓮の花に見立てたものです。重要な蜜源植物で、花は小さな蝶形花が輪状に集まったものです。ゲンゲ畑は春の田園の風物詩で緑肥として栽培されます。中国原産で、花期は4～6月。



ウマゴヤシ（馬肥やし）

畑や道端に生えるマメ科の越年草。茎は地面を這い、葉は3小葉からなり、長さ1～2匁の広卵形。托葉が櫛の歯のように切れ込むのが特徴です。花は黄色で5匁ほどの蝶形花。果実は螺旋状に巻いてトゲ状の物があるので豆科とは思えません。馬を肥やすよい牧草なのでこの名があります。ヨーロッパ原産で、花期は3～5月。



シロツメクサ（白詰草）

牧草として各地に広がったマメ科シャジクソウ属の多年草。葉は3小葉、時に4小葉からなり、葉の表面に斑紋があります。4小葉のものを「四つ葉のクローバー」として幸せのしるしとします。花は直径約1匁で白い花が多数集って球状になっています。ヨーロッパ原産で、花期は5～8月。



コメツブツメクサ（米粒詰草）

道端や荒地に生えるマメ科シャジクソウ属の1年草。高さは40匁ほど。葉は3小葉からなり、葉柄は短いです。花は黄色で、小さな蝶形花が多数集まって咲きます。授粉すると花は下を向き、花弁が大きくなります。ヨーロッパ～西アジア原産で、花期は5～6月。



ヤハズソウ（矢筈草）

日当たりのよい野原や道端に生えるマメ科ヤハズソウ属の1年草。茎は高さ25㎝ほどになり、下向きの毛が生えています。葉は互生し、小葉の先は丸いかやや凹んでいます。葉の脇に淡紅色の小さな蝶形の花をつけます。和名は葉先が矢筈型にちぎれることによります。花期は8～9月。



ネコハギ（猫萩）

日当たりの良い、やや乾いたところに生えるマメ科ハギ属の多年草。葉は互生し、3小葉を持つ複葉で、小葉の両面に短毛が生えています。花は白色の蝶形花ですが、付け根が紫色を帯びます。短い毛が多いことから「猫萩」と呼ばれます。花期は8～9月。



メドハギ（蓍萩）

日当たりのよい草地や道端に生えるマメ科ハギ属の多年草。茎は高さ1mほどになります。葉は3小葉で茎に密生しています。花は葉腋に数個つき、黄白色で長さ6～7mmです。花期は8～10月。



アレチヌスビトハギ（荒地盗人萩）

道端などの荒地に生えるマメ科ヌスビトハギ属の多年草。葉は3出複葉で小葉は卵形。節果は2～5節あります（ヌスビトハギは2節）。花は淡紅色の蝶形。種子の表面には細かい毛がびっしりあって、これで衣服や動物などに付着して運ばれる「ひっつき虫」のひとつです。北アメリカ原産で、花期は8～9月。



カラスノエンドウ（烏野豌豆）

野原や畑などに生えるマメ科ソラマメ属のつる性越年草。葉は8～16個の小葉を付ける羽状複葉で、先の方は巻きひげになります。小葉の先端が矢筈状に凹んでいます。葉の基部に黒っぽい「花外蜜腺」があり蜜を分泌。花は葉腋につき、紅紫色の蝶形花です。豆果は斜上し、黒く熟します。花期は3～6月。



スズメノエンドウ（雀野豌豆）

道端に生えるマメ科ソラマメ属のつる性越年草。高さ50cmほどになり、葉は12～14個の小葉からなり先は巻きひげになります（巻きひげは3本です）。花は葉腋から伸びた柄の先につき、白紫色の花をつけ、頭花には毛があり下向きで2個の種子が入っています。花期は4～6月。



クサネム（草合歓）

水田や川岸などの湿地に生えるマメ科クサネム属の1年草。高さ0.5～1mになります。茎の上部は中空。葉は偶数羽状複葉。小葉は20～30対の線形。裏面は白っぽい。花は淡黄色で長さ約1cm。旗弁の基部に赤褐色の斑点があります。葉がネムノキに似て草本なので、この名があります。花期は7～10月。



クズ（葛）

山野に生えるマメ科クズのつる性多年草。花は紅紫色でブドウの匂いがします。葛の根を葛根と呼び、漢方薬として初期の風邪に用います（葛根湯）。葉は3小葉からなり、褐色の毛があり、根元が太いです。また根から葛粉が採れます。葛湯、葛切り、葛餅などにして食べます。花期は7～9月。



タンキリマメ（痰切り豆）

草地に生えるマメ科のつる性多年草。茎はつる性で左巻き、葉脈は裏面に隆起し、3行脈。花は黄色、花の萼に黄色の腺点があり、果実は袋果で赤色、中に径約4mmの黒い種子があります。葉を二つ折りにし、上半分が幅広いとタンキリマメ、トキリマメはその逆で、赤い袋果に1～2個の種子があるのはこの2種で、花期は7～9月。



ゲンノショウコ（現の証拠）

山野に生えるフウロソウ科フウロソウ属の多年草。茎は毛が多く、葉柄、花柄、萼に腺毛があり、葉は掌状に3～5深裂しています。花は長い柄の先に2個付き、径10～15 mm で、白色のものから紅紫色のものまであって、花序に腺毛があります。西日本には赤花が多いようです。有名な下痢止め薬です。花期は5～9月。



アメリカフウロ（アメリカ風露）

野原や道端に生えるフウロソウ科フウロソウ属の1年草。茎は赤茶色で細かい毛があり、葉は基部まで5～7裂していません。花は淡紅白色、花弁が萼片と同じ長さです。ゲンノショウコに似ていますが、葉の裂し方が違います。最近増えつつあり、畑にも進入し、困った雑草です。アメリカ原産で、花期は5～9月。



カタバミ（傍食）

庭や道端などに生えるカタバミ科カタバミ属の多年草。高さ10～20 cm 。葉は長い柄の先にハート形をした3枚の小葉を付けます。花は直径約8 mm の黄色。雄しべは10個ありますが、5個は長く5個は短いです。蒴果は円柱形で上向き、熟すと5裂し多数の種子をはじき飛ばします。花期は5～7月。



アカカタバミ（赤傍食）

庭、畑、道端などに生えるカタバミ科カタバミ属の多年草。高さ5～10㍎。葉は赤紫色です。花は黄色の5弁花で喉の部分に赤い輪が見られます。山間部には少ないといわれていますが、直根形の根を持ち、中々したたかな草本です。果期の頃に触ると種子をはじき飛ばしているのが手の感触でわかります。花期は5～8月。



イモカタバミ（芋傍食）

道端や畑などに生えるカタバミ科カタバミ属の多年草。高さ15㍎ほどになります。園芸植物として導入されたのが野生化したものです。夏、赤紫色の5弁花をつけ、特に中心部の色が濃いです。塊茎（芋）によって増えます。南アメリカ原産で、花期は4～10月。



ムラサキカタバミ（紫傍食）

道端や荒れ地に生えるカタバミ科カタバミ属の多年草。葉は全て根元から出る3小葉からなります。小葉は縁の近くにまばらに毛が見られます。花茎の先に散形花序を出し、数個の花をつけ、花は淡紅色で濃い色のスジがあります。南アメリカ原産で、花期は2～11月。



オッタチカタバミ

カタバミ科カタバミ属の多年草。道端や荒地、造成地などに見られ、茎は直立し高さ30㍍ほどになります。葉は3小葉で、花は黄色の5弁花。果柄が斜め下に反り返るのが特徴です。現在あちらこちらに急増中です。北アメリカ原産で、花期は4～10月。



オキジムシロ

道端などに生えるバラ科キジムシロ属の越年草。茎は直立または斜上し高さ40㍍ほどになります。葉は奇数羽状複葉で小葉も中裂し鋸歯があります。7月頃から直径1㍍ほどの黄色の5弁花をつけます。ヨーロッパ原産で、花期は7～9月。



ヘビイチゴ (蛇莓)

田の畦や湿った草地に生えるバラ科ヘビイチゴ属の多年草。実が食用にならず、ヘビが食べると考えたからこの名があります。茎は長く地を這い、葉は3小葉からなります。花は黄色で花の後、赤い実が熟しますが、美味しくないです。外側の副萼片が非常に大きいのが特徴です。花期は4～6月。



キンミズヒキ（金水引）

山野に生えるバラ科キンミズヒキ属の多年草。高さ30～80㍎。茎や葉に毛が多いです。葉は5～9枚の小葉からなります。花は径6～11㍎の黄色の5弁花で細い花穂に多数つきます。果実にはかぎ形のトゲがあり、種子が衣服などにくっついて運ばれる「ひっつき虫」です。花期は7～10月。



ユキノシタ（雪の下）

湿った岩の上などに生えるユキノシタ科ユキノシタ属の多年草。葉は根生し、柄があり、掌状に浅裂。花茎は高さ20～50㍎で、多数の花をまばらにつけます。花弁は5個、上の3個は小さく卵形、淡紅色で濃い斑点があります。葉は火傷などに薬効があり、食用にもなります。花期は5～6月。



ヒマラヤユキノシタ

石垣や庭の隅などに生えるユキノシタ科バルゲニア属の常緑多年草。イワウチワの別名があるように花のない時はウチワ、またはシャモジみたいな大きな葉があります。2～5月にかけて、淡いピンクの花をつけます。ヒマラヤ原産なので真夏の直射日光は避け、日陰の方がよく育つようです。



タイトゴメ（大唐米）

海岸の岩場などに生えるベンケイソウ科キリンソウ属の多年草。高さは10㍎弱。茎は直立または斜上します。葉は密に互生し円柱状倒卵形で、長さ5㍎前後です。花は黄色で直径約1㍎。花期は5～7月。



コモチマンネングサ（子持ち万年草）

沿岸地などに生えるベンケイソウ科キリンソウ属の多年草。葉の基部に珠芽をつけ、これが地に落ちて繁殖することからこの名があります。葉は長さ1～2㍎で、下部の葉は対生、上部の葉は互生しています。花は黄色で直径約1㍎で、種子はできません。花期は5～6月。



メキシコマンネングサ

日当たりの良い道端などに生えるベンケイソウ科キリンソウ属の多年草。茎は直立し高さ17㍎ほどになり、花茎の葉は互生し、花のつかない茎では輪生しています。花は直径約1㍎で黄色の5弁花。車の排気ガスに強く、繁殖力も旺盛です。メキシコ原産で、花期は3～5月。



ハママンネングサ（浜万年草）

海岸の岩陰などに生えるベンケイソウ科の多年草。茎は赤褐色で高さ15匁ほどになります。葉は互生し長さ3匁ぐらいのしゃもじ形で肉厚、葉柄はありません。花は茎先や葉腋から出て鮮黄色の5弁花で、花径は約1匁ほどで花弁の先端は尖っています。シママンネングサともいいます。花期は7～8月。



セイヨウアブラナ（西洋油菜）

アブラナ科の1年草。葉の花と呼ばれるのはセイヨウアブラナのことです。早春、河川敷や畑などで黄色く咲きほこり、葉や茎が粉白色を帯び、葉の基部は茎を抱いています。雄しべは6本ありますが4本が大きく、2本は小さいです。果実は円柱形で細長い長角果。種子から菜種油が採れます。ヨーロッパ原産で、花期は3～5月。



イヌガラシ（犬辛子）

道端などに生えるアブラナ科イヌガラシ属の多年草。高さ50匁ほどで、葉は羽状に少し裂けます。5月、黄色で直径5mmほどの小さな花を付けます。果実は長さ2匁ほどの円柱形長角果で内側に少し湾曲しています。似た種にミチバタガラシがありますが、果実が湾曲しません。花期は4～9月。



ナズナ（薺）

道端や畑などに生えるアブラナ科ナズナ属の越年草。草丈40㍉ほど。花は白色で直径約3㍉、果実は長さ6～7㍉の倒三角形で先端が少し凹んでいます。花は3～6月に咲きますが、温暖化の影響でしょうか通年見る事が出来ます。春の七草の一つですが畑の困った雑草です。別名ペンペン草。



マメグンバイナズナ（豆軍配薺）

アブラナ科グンバイナズナ属の越年草。道端や荒地などに生え、高さ50㍉ほどになり、葉は濃緑色で倒披針形～線状楕円形で、長さ2～5㍉。花は緑白色で直径約3㍉。果実は縁に広い翼があり、直径約3㍉で軍配形をし、中に数個の種子が入っています。北アメリカ原産で、花期は5～6月。



カラクサナズナ（唐草薺）

アブラナ科カラクサナズナ属の1年草。畑や道端に生え、高さ30㍉ほどになります。葉が唐草模様なのでこの名があります。乳牛がこの草を食べると牛乳に異臭が移るので畜産農家はこの植物を非常に嫌っています。茎や葉をもむと特有の臭気があります。別名：インチンナズナ。ヨーロッパ原産で、花期は4～11月。



タネツケバナ（種漬花）

水辺に生えるアブラナ科タネツケバナ属の越年草。水辺だけでなくあぜ道や、乾いたところにも生えています。葉は奇数羽状複葉で、小葉は円形～長楕円形。4月頃、白色で直径3～4ミリの小さな花を付けます。種もみを水につけ、苗代の準備をする頃に咲きますのでこの名があります。花期は4～6月。



ハマダイコン（浜大根）

ダイコンの野生化したもので、海岸の砂地に生えるアブラナ科ダイコン属の越年草。花期は3～4月、茎の先に繖状花序を出し淡紅紫色の4弁花を開きます。直径は2センチほどでムラサキの線が通っています。根は大根のように太くなりませんが辛みは強く、筋も多いです。



ウマノアシガタ（馬の脚形）

日当たりの良い草原に生えるキンポウゲ科キンポウゲ属の多年草。茎は高さ70センチほどになります。葉を透かすと細い3脈がはっきり見えます。花は径2センチ、花弁は黄色で光沢が強く、内面の基部に蜜腺があります。花の後の集合果は球形です。キンポウゲはこのウマノアシガタを指します。花期は4～5月。



タガラシ（田辛し）

水田や畦などの湿地に生えるキンポウゲ科キンポウゲ属の越年草。高さ50㍍ほどになり、葉は3深裂し、裂片はさらに細かく裂けます。花は黄色で直径約1.5㍍の5弁花。花茎は中空。花の下の葉は3出で裂けません。花の後の集合果は楕円形です。キンポウゲ属の植物は有毒種が多いので要注意です。花期は4月。



キツネノボタン（狐の牡丹）

田の畦や湿り気のある道端などに生えるキンポウゲ科キンポウゲ属の越年草。野原に生え葉が牡丹に似て花が違うのでキツネが化けたのでは？、ということで、この名があります。葉は3出複葉で、花は径1㍍ほどの黄色の5弁花を開きます。そう果は金平糖のようで花柱の先が曲がっています。花期は4～5月。



ケキツネノボタン（毛狐の牡丹）

山野の少し湿った所に生えるキンポウゲ科キンポウゲ属の越年草。高さ60㍍ほどになります。葉は3出複葉で小葉は深く3裂し、開出した毛が多いです。花は直径1.2㍍で黄色。そう果は金平糖形をしており花柱の先がほとんど曲がりません。キツネノボタンより多く生えています。花期は3～7月。



センニンソウ（仙人掌）

山野に生えるキンポウゲ科センニンソウ属の落葉つる性。葉は対生、3～7枚の小葉からなる羽状複葉。葉に鋸歯はありません。純白の4弁花を十字状、上向きに開きます。秋が深まる頃、そう果には羽毛状の長い毛が残り風に飛ばされます。そう果の先に残る花柱の毛を仙人の髭に例えた名前です。花期は8～9月。



ヒメウス（姫鳥頭）

山野に生えるキンポウゲ科ヒメウス属の多年草。茎は四角形。高さは35釐ほどになります。葉は3出複葉、葉柄は8～13釐。葉の表面は緑色、裏面は淡緑色。花は白色の小さな円筒状の5弁花。葯の色は黄色。萼片も白色で大きく、こちらが花弁かとか間違えるほど目立ちます。花のつくりが少し変わっています。花期は3～5月。



オキナグサ（翁草）

山地の日当たりの良い草原に生えるキンポウゲ科の多年草。茎葉は柄が無く、線状の裂片に分裂しています。花茎は10釐ほどになり、鐘形で長さ3釐ほどの花を下向きに開きます。和名は羽毛状に伸びたそう果の集まりを老人の白髭に例えたものです。町内にあるのは植栽種です。日本での絶滅が危惧されています。花期は4月。



ツメクサ（爪草）

畑や庭、道端に生えるナデシコ科ツメクサ属の越年草。草丈は20㎝ほどになり、根元から分枝し、茎の上部には腺毛があります。葉は厚く長さ1～2㎝の線形で先は尖っています。花は葉腋に1個つき、花弁は白色で5個。似た種にハマツメクサがあります。花期は3～7月。



オランダミミナグサ（和蘭耳菜草）

畑、道端などに生えるナデシコ科ミミナグサ属の越年草。高さ50㎝ほどになります。葉や茎に毛が多くふわふわした感じですが、繁殖力旺盛でやっかいな畑の雑草です。花は3月頃から咲き始め、茎先に白い花が密集してつきます。ヨーロッパ原産で、花期は3～6月。



ノミノツツリ（蚤の綴り）

道端や荒れ地に生えるナデシコ科ノミノツツリ属の越年草。小さな葉をノミが着る衣（綴り）に例えたもの。高さは20㎝ほどで、根元からよく分枝します。花は白色の5弁花で、ハコベのように花弁が裂けません。花柱は3個あります。花期は3～6月。



ハコベ（繁縷）

畑や道端などに生えるナデシコ科ハコベ属の越年草。高さ30㍎ほどになります。茎の片側に1列に並んで毛が生えています（ハコベ属の特徴です）。花は白色で直径6～7㍎で深裂していますので10弁のように見えます。ミドリハコベやヒヨコグサの別名があります。春の七草の一つです。花期は3～9月。



コハコベ（小繁縷）

道端などに生えるナデシコ科ハコベ属の1年草。ハコベに似て小さいのでこの名があります。茎が暗紫色を帯びています。花の花弁は5個ですが、深く切れ込んでいますので10個あるように見えます。花弁が萼片より短く花柱は3個あります。ヨーロッパ原産で、花期は3～9月。



ハマナデシコ（浜撫子）

海岸に生えるナデシコ科の多年草。葉は厚くて光沢があり幅が広いのが特徴で、長さ8㍎ほどの長楕円形。花は紅紫色で、直径約1.5㍎。茎の先に密になって咲きます。花弁の縁が鋸歯状に切れ込んでいます。フジナデシコの別名で園芸店に並んでいます。花期は7～10月。



ヨウシュヤマゴボウ（洋種山牛蒡）

空き地などに生えるヤマゴボウ科ヤマゴボウ属の多年草。茎は太く赤味を帯びています。葉と花序が対生しています。花は白色。果実期には垂れ下がります。果実は直径約8mm、黒紫色に熟し、つぶすと毒々しい液が出ます。実の形がカボチャに似ています。北アメリカ原産で、花期は6～9月。



ツルナ（蔓菜）

海岸の砂地などに生えるツルナ科の多年草。高さ50cmほどになり、茎や葉は肉質で細かい粒状の突起があります。葉は互生し、7cmほどの卵状三角形で柔らかいです。花は黄色で葉腋に1～2個つけます。古くから食用にされニュージーランドのハウレン草とも呼ばれ、近年アイスプラント名で売られています。花期は6～7月。



スベリヒユ（滑りヒユ）

日当たりの良いところに生えるスベリヒユ科の多肉質1年草。茎は赤紫色を帯び、地を這って広がります。葉は長さ2cmほどのへら形。花は鮮黄色の直径8mmの5弁花で、日が当たると開き、暗くなると閉じます。ほおって置くとどんどん増え雑草化します。茹でたり天麩羅にして食べられます。花期は7～9月。



ヒナタイノコツチ（日向猪子槌）

日当たりの良い道端や荒地に生えるヒユ科イノコツチ属の多年草。高さは1 畝ほどになります。茎は四角形です。花はヒカゲイノコツチより密につきます。また節がヒカゲイノコツチのように大きく膨らみません。乾燥した根を漢方で「牛膝」と呼び、利尿、強精に用います。花期は8～10月。



ヒカゲイノコツチ（日陰猪子槌）

山野の林内のあまり日の当たらない所に生えるヒユ科イノコツチ属の多年草。高さは1 畝ほどになります。茎は四角形で節が膨らんでいます。茎先や枝先に緑色の小さな花をまばらに付けます。果穂は花序の軸に下向きにつき、針状の小苞があり動物の体などにひっついて運ばれる「ひっつき虫」です。花期は8～9月。



ハリビユ

日当たりの良い道端や荒地に生えるヒユ科ヒユ属の1 年草。高さは1 畝ほどになります。茎の節が赤みを帯び下部の節に托葉とトゲがあります。葉は互生し、卵状長楕円形で先は尖っています。夏、茎先や葉腋より穂状花序を出し、緑色の花を多数付けます。熱帯アメリカ原産で、花期は8～11月。



ホソバツルノゲイトウ

道端や田の畦などに生えるヒユ科ヒユ属の多年草。茎は密に分枝して地を這い高さ50㎝ほどになります。葉は対生し無柄で披針形です。花は葉腋にボール状に集まり白色。熱帯アメリカ原産で、花期は夏～秋です。



オシロイバナ

平地の荒地や道端に生えるオシロイバナ科の多年草。合弁花冠のように見えるのは萼で、萼のように見えるのは苞で、花弁はありません。花の色は白色、ピンク、黄色など。成熟した種子の皮をむいて中の塊をつぶすと白粉になり、江戸の頃オシロイの代用に使ったので、この名があります。南米原産で、花期は8～10月。



シロザ

海岸の砂地や道端などに生えるアカザ科アカザ属の1年草。アカザなどに混じって生えます。若葉が白い粉状物に覆われています。かなり古い時代に中国から食用として渡来したと考えられ、葉っぱは天ぷらなどにして食べられますが、光線過敏性皮膚炎を起こすのでアレルギー体質の人は食べない方がいいです。



アカザ（葉）

海岸の砂地や道端などに生えるアカザ科アカザ属の1年草。シロザなどに混じって生えます。若葉が紅紫色の粉状物に覆われています。かなり古い時代に中国から食用として渡来したと考えられています。若芽は天ぷらなどにして食べられますが、光線過敏性皮膚炎を起こすのでアレルギー体質の人は食べない方がいいです。



コアカザ（小葉）

海岸や道端に生えるアカザ科アカザ属の1年草。高さ30～60㍍、葉はシロザより幅が狭く、裏面は白っぽいです。花には白い粉状物が目立ちます。アカザ属の花は雌しべが成熟した後に雄しべが伸びてきます。種子は黒色で光沢はありません。花期は6～10月。



ムラサキアカザ（紫菜）

畑や道端などに生えるアカザ科アカザ属の1年草。高さ0.6～1.5㍍になります。若い頃の葉は三角形ですが、後から出る葉は細長いです。秋になると2㍍ほどになった茎が頑丈で木質化します。赤い縦縞が綺麗なので、それを利用して杖を作る人もいます。



オカヒジキ（陸鹿尾菜）

海岸の砂地に生えるアカザ科オカヒジキ属の1年草。海浜植物のひとつで、海藻のヒジキに似て砂地に生えることからこの名があります。茎は分枝して広がり、高さ40㍍ほどになります。葉は緑色、肉質で長さ1～3㍍の細い円柱形。先端は針状に尖っています。若い茎の先を摘んで天ぷらなどにして食べます。



ホウキギ（帚木）

畑や庭などに植えられるアカザ科ホウキギ属の1年草で高さ1㍍ほどになります。茎は下部からよく分枝し全体が楕円形状になり、秋には円内の写真の様に株全体が赤くなります。茎全体を乾燥して、これを束ねて庭帚として利用します。



スイバ（酸葉）

道端に生えるタデ科ギシギシ属の多年草。別名スカンポ。上部の葉は茎を抱いています。下部の葉の基部はやじり形。雌雄異株、総状花序に小さな花を多数付けます。雌花は赤味が強いようです。雄花は淡緑色。茎や葉に蓆酸を含み、かじると酸味があります。花期は5～8月。



ギシギシ

やや湿ったところに生えるタデ科ギシギシ属の多年草。草丈は0.6～1m。葉は10～25cmの長楕円形で縁は大きく波打っています。若芽は食用、根は薬用になります。花は茎の上部に総状花序を出し淡緑色の花を多数付け、そう果には翼があります。花期は6～8月。



ミズヒキ (水引)

山野に生えるタデ科タデ属の多年草。高さ40～80cm。葉は楕円形で先は尖り、表面の中央に黒い斑紋があることもあります。細い花穂を上から見ると紅く、下からは白く見えることから、紅白の水引に例えた名です。花柱の先はカギ状に曲がっています。動物などにくっついて種子を運ぶ「ひつつき虫」です。花期は8～9月。



ミチヤナギ (道柳)

道端などに生えるタデ科タデ属の1年草。茎には細い縦すじがあってよく分枝します。葉は互生し、長さ1.5～3cmの披針形。托葉鞘は白色の膜質。花は淡緑色で5中裂し、葉腋に数個束生しています。花期は10～11月。



ミソソバ（溝蕎麦）

山野の水辺や湿った所に生えるタデ科タデ属の1年草。和名は溝に生えるソバに似た葉の草という意味。また、花が金平糖に似ているので金平糖の花ともいいます。茎には下向きのトゲがあります。花は淡紅色または白色で小さな花が10個ほど集まって咲きます。花期は9月。



ママコノシリヌグイ（継子の尻拭い）

海岸や道端などに生えるタデ科タデ属の1年草。葉は互生し、長さ3～8センチの三角形で先端は尖っています。茎や葉に下向きのトゲがあります。この葉っぱで尻を拭かれたら痛いでしょうね。和名はトゲが多く痛そうなので付けられました。花期は5～10月。



イシミカワ

道端などに生えるタデ科タデ属のつる性1年草。葉は互生し長さ2～4センチの三角形。茎には下向きの鋭いトゲがあり、木や草にからみつきます。茎先や葉腋に総状花序を出して、淡緑色に小さな花を付け、そう果は約3ミリの球形で、緑白色から青藍色になります。花期は7～10月。



イヌタデ（犬蓼）

道端や荒地などに生えるタデ科タデ属の1年草。高さ50㍍ほどになります。6月頃、赤色の小さな花を多数つけます。これを赤飯に見立ててアカマンマとも呼びます。托葉鞘は長さ8㍍ほどの筒型ですが、縁に長い毛があるのが特徴です。花期は6～10月。



シロバナサクラタデ（白花桜蓼）

湿地に生えるタデ科タデ属の多年草。雌雄異株です。高さは1㍍ほどになり、節間の托葉鞘の縁に長い毛があります。花は白色で、雄花はおしべが8個ほど花弁より突き出し、雌花は2～3個の花柱が突き出ています。花穂は垂れないといわれていますが、垂れるのも多いようです。花期は9～10月。



オオベニタデ（大紅蓼）

山野に生えるタデ科タデ属の1年草。高さは2㍍にもなりません。茎はよく枝を分け、節はふくくて赤みを帯びます。葉は大きく披針形で先端は尖り両面に荒い毛が生えています。花穂は長さ3～10㍍で、先端は垂れます。中国原産で、花期は8～9月。



イタドリ（虎杖）

日当たりの良い荒地や斜面に生えるタデ科タデ属の多年草で雌雄異株。高さは1.5mほどになります。イタドリの新芽は酸味があり美味ですが、食べ過ぎない方がいいです。根茎を乾燥したものは虎杖根と呼び、緩下剤として使われます。花期は8～9月。



ツルドクダミ（蔓藪草）

タデ科タデ属のつる性多年草。空き家の塀などによじ登り夏の終わり頃、円錐状の花序を伸ばし、葉が隠れてしまうほどびっしりと白い花を付けます。花は雄花と雌花が花序に同居しています。ドクダミの名がありますが、葉がドクダミに似ているだけで関係ありません。中国原産で塊茎は緩下剤に利用。花期は8～10月。



カラムシ（苧蒸）

山野や人里に生えるイラクサ科カラムシ属の多年草。茎や葉柄に短毛が密生。葉は互生し、長さ10～15cmの広卵形で先端は尖ります。裏面は白い綿毛が密生し白く見えます。茎の繊維は丈夫なので、上質の織物が作られました。雌雄同株。花期は7～9月。



ドクダミ

日陰で湿り気の多い所に生えるドクダミ科の多年草。高さ30㍍ほどになります。独特の匂いがしますが、薬効に優れた民間薬として消炎、利尿などに使われ、「十薬」とも呼ばれます。白い花弁のように見えるのは総苞片で、その上が花で、花弁も萼もありません。葉っぱは天ぷらにして臭みもなく美味です。花期は6～7月。



シュンラン（春蘭）

乾燥した落葉樹の林内に生えるラン科シュンラン属の多年草。春に白い鞘に包まれた花茎の先に淡黄緑色の香りのある花を咲かせます。ホクロとかジジババなどの地方名があります。通常、シュンランは一茎一花と呼ばれますが、写真の花は2個ついています。花期は4～5月。



ネジバナ（捩花）

日当たりのよい野原などに生えるラン科ネジバナ属の多年草。茎は高さ40㍍ほどになります。葉の間から10～30㍍の花茎を出し、桃紅色で可憐な小花が多数横向きに咲きます。花茎は淡緑色。花序の捩れ方は左右様々で中には途中から向きを変える花もあります。捩れた花序からつけられた名前です。花期は5～8月。



シラン（紫蘭）

庭や花壇などに植えられるラン科シラン属の多年草。早春に芽を出し、夏に高さ50㍍ほどの花茎を伸ばし赤紫色の花をつけます。花の直径は5㍍ほどです。日本原産のランで丈夫です。白い花を咲かせる品種もありますが、花は白くてもシランです。花期は4～5月。



カキツバタ（杜若）

湿地に生えるアヤメ科アヤメ属の多年草。花は初夏の頃と秋の2回咲きますが、写真の花は9月に撮った写真です。秋の花は花数も少ないようです。カキツバタは花弁の元に白い目型の模様があるのが特徴です。ハナショウブは黄色、アヤメは網目状です。花期は5～6月、9月。



アヤメ（菖蒲）

やや乾いた所に生えるアヤメ科アヤメ属の多年草。高さ60㍍ほどで紫色の花を2～3個つけます。花被片は6個あって、外側の3個が大きいです。この外花被片に網状の模様があるので「綾目：アヤメ」と呼ぶ様になりました。アヤメは水辺近くにあると考えがちですが、乾燥した所を好みます。花期は5～7月。



ハナショウブ（花菖蒲）

湿原や水気の多い草原に生えるアヤメ科アヤメ属の多年草。カキツバタは水中、アヤメは畑のような少し乾いた所、花菖蒲は両者の間で水際の湿地を好むようです。5月の中～下旬頃から咲き始め、花卉の元に黄色い目型模様があるのが特徴です。アヤメ園はハナショウブが主流になっています。花期は5～7月。



キショウブ（黄菖蒲）

湿地や河川に生えるアヤメ科アヤメ属の多年草。葉は高さ1畝ほどになり、中脈が目立ちます。花茎を伸ばし茎先に黄色の花を付けます。観賞用として輸入されたものが逸出し野生化し各地に広がりました。宮崎川や浦川の支流に生えていましたが減少傾向です。ヨーロッパ原産で、花期は5～6月。



ヒオウギスイセン（檜扇水仙）

アヤメ科クロコスミア属の多年草。ヒオウギに似て葉っぱが水仙に似ていますので、このように呼ばれています。ヒメヒオウギスイセンに比べ花茎が直立し1、2畝ほどになります。南アフリカ原産で、花は5月頃咲きます。



ヒメヒオウギスイセン（姫檜扇水仙）

アヤメ科モンドブレチア属の多年草です。南アフリカ原産の帰化種で観賞用に導入されたのが逸出し野生化しています。高さは花径も含めて80㍎ほど。6月頃から、葉より高い花茎を伸ばし直径3㍎ほどの朱赤色の花を付けます。花は下の方から上に向かって咲き進みます。花期は6～7月。



シャガ（射干）

林内に生えるアヤメ科アヤメ属の常緑多年草。葉は高さ30～60㍎、幅2～3㍎で光沢があります。花は直径4～5㍎、淡白青紫色で、外被片の中央部に橙黄色の斑点と、とさか状の突起があります。3倍体植物なので結実しません。アヤメ科の茎は平たく横に広がります。花期は4～5月。



スイセンアヤメ（水仙菖蒲）

道端や祠の周りなどで見かけるアヤメ科スパクラシス属の多年草。南アフリカ原産で園芸用として輸入されたのが野生化したものです。草丈は30～40㍎になり、花は白色の6弁花で中心部が黄色をしています。赤色などの園芸種もあります。花期は4～5月。



ニワゼキショウ（庭石菖）

日当たりの良い道端、芝生の中などに生えるアヤメ科ニワゼキショウ属の多年草。茎は高さ10～20㍎ですが、茎は平たく横に広がっています。葉は剣状で縁には細い鋸歯があります。花は茎の上部から細い花枝をのぼし直径約1・5㍎、淡紫色の6弁花をつけます。花は1日花です。北アメリカ原産で、花期は5～6月。



オニドコロ（鬼野老）

山野に生えるヤマノイモ科ヤマノイモ属のつる性多年草。雌雄異株で雄花序は葉腋から直立しますが、雌花序は垂れ下がり蒴果は3翼があり上向きとなります。写真の花は雌花序です。花期は7～8月。



ヤマノイモ（山の芋）

山野に生えるヤマノイモ科ヤマノイモ属の多年草。葉は対生、三角状披針形で基部は心形、葉の先は尖ります。葉腋にムカゴが出来、食べられます（ムカゴ飯にして美味です）。蒴果は下向きに扁平な丸い翼が3枚あります。子供の頃鼻にくっつけて遊びました。花期は7～8月。



ヒガンバナ（彼岸花）

田の畦、墓地などに生えるヒガンバナ科の多年草。花は葉を見ず、葉は花を見ないことからハミス、ハカケとも呼ばれ、全国で900以上の呼び名があり、それだけ身近な植物です。秋の彼岸の頃、高さ50㍎ほどの花茎を立て、深赤色の美しい6弁花を5～7輪開きます。鱗茎にアルカロイドを含み有毒です。花期は9月お彼岸の頃。



シロバナマンジュシャゲ

民家の庭などに植えられているヒガンバナ科ヒガンバナ属の多年草。9月頃、ヒガンバナ（赤色）に混じって白い花を咲かせます（単独で咲くこともあります）。赤いヒガンバナとショウキズイセン（黄色）の交配種といわれています。花期は9月、お彼岸の頃。



ナツズイセン（夏水仙）

日当たりの良い草地に生えるヒガンバナ科ヒガンバナ属の多年草。葉が水仙に似て花が夏に咲くのでこの名があります。花茎は高さ70㍎ほどになり、淡紅紫色の花を数個付けます。中国原産で古い時代に渡来し、観賞用であったのが野生化しています。花期は7～9月。



ハマオモト（別名：ハマユウ）

暖地海岸の砂地に生えるヒガンバナ科ハマオモト属の常緑多年草。別名ハマユウ。緑の葉が万年青（オモト）に似ているため。花は夕方近くから咲き始め、完全に開く夜中が香りも強くなります。長洲海岸では見られなくなりましたが、民家の庭などで見られます。似た種に園芸種のスパイダーリリーがあります。花期は7～9月。



インドハマユウ

公園などに植えられているヒガンバナ科の常緑多年草。ハマオモトの仲間ですが、花弁の幅が広く、花茎は高さ60㍻ほどになり、白色で長さ10㍻ほどの花をつけます。花弁が赤みを帯びる種もあります。インドハマユウは通称で、本当の名は「アフリカハマユウ」。花期は6～8月。



スノーフレーク

庭などに植栽されるヒガンバナ科スノーフレーク属の多年草。4月頃、長い花茎の先に釣鐘型の白い花を数個つけ、花弁は6枚で先端の内側に緑色の斑点があります。育てやすく球根のためよく増殖します。別名スズラン水仙とも呼ばれ、ヨーロッパ原産で、花期は4～5月。



タマスダレ（玉簾）

道端に生えるヒガンバナ科タマスダレ属の常緑多年草。草丈30㍍ほどで、花茎5㍍ほどの白い花を天に向かって咲かせます。和名は茂った葉をスダレに、その中の花をタマ（玉）と見立てたのでしょうか？。鱗茎はリコリンを含むので有毒です。仲間にサフランモドキやハブランサスがあります。ブラジル原産で、花期は7～11月。



テッポウユリ

庭に植えられるユリ科ユリ属の多年草。花は5月から6月にかけて白いラッパ状の花を横向きに関きます。タカサゴユリに似ていますが葉が細ければタカサゴユリ、葉が太ければテッポウユリと考えて良いでしょう。



タカサゴユリ（高砂百合）

道端などに生えるユリ科ユリ属の多年草。夏から秋にかけて茎頂に長さ15㍍ほどのラッパ状の花を横向き、総状につけます。花の内部は白色、外側は紫褐色を帯びます。ユリ科には珍しく、種子から発芽するので各地に野生化しています。台湾原産で、花期は8～10月。



ホトトギス（杜鵑草）

山野の湿り気のあるところに生えるユリ科の多年草。茎は直立し、または垂れ下がり、1 葎ほどになります。葉は互生し、長楕円状披針形で基部は茎を抱き、葉腋に2～3個の花を上向きにつけます。花は径2.5 釐程で、漏斗状鐘形です。名は花被片にある斑点をホトトギスの胸にある斑点になぞられたものです。花期は9～10月。



オニユリ（鬼百合）

山野に生えるユリ科ユリ属の多年草。高さ2 葎ほどになります。茎葉の基部に黒紫色のムカゴが出来ます。茎の上部に花を横向き、または下向きに咲かせ、花被片は反り返り橙赤色の濃い斑点があります。鱗茎はデンプン質に富み食用になります。花期は7～8月。



ツルボ（蔓穂）

山野の日当たりの良いところに生えるユリ科ツルボ属の多年草。葉は線形で内側に浅く窪み、厚くて柔らかいです。葉の間から40 釐ほどの花茎を立て、その先端に4～7 釐の穂のような総状花序をつけ、淡紫色の花を沢山つけます。花期は8～9月。



オオバギボウシ（大葉擬宝珠）

山地の草原や丘陵地などに生えるユリ科ギボウシ属の多年草。葉は根生し、卵円形で、先は鋭く尖ります。1匍ほどの花茎を根生葉の間から出し、長い総状花序に薄紫色または白色の花を多数横向きを開きます。花は筒状鐘形で先は6裂しています。平地にあるのは植栽種です。花期は8～10月。



コバギボウシ（小葉擬宝珠）

日当たりの良い湿地に生えるユリ科ギボウシ属の多年草。葉は斜めに立ち、艶が無く表面の脈は凹み、基部は急に葉柄に沿って流れています。高さ60匍ほどの花茎を出し、長さ4～5匍で淡紫色の花を下または横向きを開きます。花期は7～8月。



ヤブラン（藪蘭）

山地の木陰に生えるユリ科ヤブラン属の多年草。葉は線形で長さ50匍、深緑色で光沢があります。花茎は高さ50匍ほどになり、8～12匍の花序に多数の小さな花をつけます。花被片は淡紫色の楕円形で長さ4ミリほどです。果実は種子が露出し、径6～7ミリ、紫黒色に熟します。花期は8～9月。



アマドコロ（甘野老）

山野や野原などに生えるユリ科アマドコロ属の多年草。和名は地下茎がトコロ（ヤマノイモ科）に似て、甘味があることにより。葉の脇から、2つに分かれた花枝を出し、その先に長さ2匁ほどの緑白色の花を垂らします。液果は球形で直径約1匁、黒紫色に熟します。花期は4～5月。



ノカンゾウ（野萱草）

やや湿った所に生えるユリ科ワスレグサ属の多年草。ヤブカンゾウより一回り小さく、70匁ほどの花茎を伸ばし、茎先に赤褐色の花をつけます。花径は約7匁、花被片は6個です。花期は7～8月。



ヤブカンゾウ（藪萱草）

藪陰などに生えるユリ科ワスレグサ属の多年草。茎丈0.8～1m。葉は長さ40～60匁の広線形。夏に葉よりも高く花茎を立て、直径約8匁の橙赤色の花を数個つけます。花は雄しべや雌しべが弁化して八重咲きとなります。蕾や根を食用、または利尿などの薬用にします。花期は7～8月。



ジャンヒゲ（蛇の鬚）

山野の林内に生えるユリ科ヤブラン属の多年草。葉は根生し幅2～3mmの線形です。花茎は扁平で高さ15cmほどになり淡紫色の花を総状に付けます。種子は直径約7mmで碧色。ひげ根の肥大したものを麦門冬と呼び薬用にします（咳止め、去痰、滋養強壮）。花期は7～8月。



ノシラン

海岸近くの林内に生えるユリ科ジャンヒゲ属の多年草。葉は長さ80cmほどの線形で厚く光沢があります。花柄は扁平で狭い翼があり、花は白色、種子は瑠璃色の倒卵形です。花期は7～8月。



ユリズイセン

庭や花壇などに植えられるユリ科アルストロメリア属の多年草。高さ1mほどになります。アルストロメリアの原種で、花に茶褐色の斑点が入り地味なようで派手な花です。ブラジル北部原産で暑さ、寒さに強い品種で、根から澱粉が採れます。花期は5～6月。



オモト（万年青）

山地林内に生えるユリ科オモト属の多年草。太く短い地下茎から数枚の葉を出します。葉は長さ30～50㍍で艶があり、基部は互いに抱きあっています。花は初夏の頃に咲き、実は球形で直径約1㍍、赤く艶やかに熟します。赤い果実がきれいなので庭に植えたり、鉢植にして観賞されます。



アオノリュウゼツラン（青の竜舌蘭）

暖地に生えるリュウゼツラン科の常緑多年草。葉は長さ1～2㍍、先端が鋭く尖り、縁にはトゲがあって、厚い多肉質の葉でロゼット状です。ロゼットの中心部より花茎を伸ばし、その先に筒状の花を付けます。花が咲くと枯れるという一回結実性の植物です。似た種に葉縁に黄色の線が入ったリュウゼツランがあります。



クサイ（草藨）

山野に生えるイグサ科イグサ属の多年草。茎は細く株立ちして高さ50㍍ほどになります。畳のイ草の仲間ですが、イ草に似て草の様に見えることからこの名があります。人の通り道の草原などに良く生えていて、町内各所でもよく見かけます。花期は6～9月。



ハラン（葉蘭）

庭の隅などに植えられているユリ科ハラン属の常緑多年草。葉の長さは80センチほどになり、昔から食べ物を包むのに使われていました。最近また、使われるようになったようです。日陰で湿り気味のところが好みます。生け花の花材としても使われ、葉に斑の入った園芸種（円内の写真）も多数あります。



キダチアロエ

ユリ科アロエ属の常緑多年草。アフリカ原産で苦味があるのでアラビア語の「aloe」から来ています。様々な薬効成分を含み火傷治療、胃腸病、便秘などに薬効があり、医者いらずの愛称があります。葉が細く暖地では赤橙色の花を付けます。似た種にアロエベラ（花は黄色）や様々な観葉園芸種があります。



マルバツユクサ（丸葉露草）

道端や草地に生えるツククサ科ツククサ属の1年草。ツククサより少し乾いたところに多いようです。節から根を出し、繁殖力旺盛で、地中に閉鎖花をつけるので地上部を取っても、芽が出てくるというやっかいな雑草です（円内の写真が閉鎖花です）。町内各所に生えています。花期は7～10月。



ツククサ（露草）

道端や草地に生えるツククサ科ツククサ属の1年草。高さ20～50㍎。葉は卵状披針形で、互生です。花弁は3枚ですが、雄しべが奥の方に3個、中央部に1個、手前に2個の形の異なる3種類があり、花粉を出すのは手前の茶褐色で葯のある2個です。和名は早朝、朝露に濡れながら花を咲かせることからの名です。花期は6～9月。



オオトキワツククサ（大常磐露草）

ツククサ科ツククサ属の仲間ですが、花は白色の3弁花。雄しべは6個。一日花です。繁殖力旺盛で地中に閉鎖果をつけます。花期は5～7月。葉の形がトキワツククサより2倍ぐらい大きいです。帰化植物とされています。



トキワツククサ（常磐露草）

暖地の海岸に生えるツククサ科ツククサ属の常緑多年草。草丈は30㍎ほどで、全体的に他の露草より小型です。葉は互生し長さ約3㍎、幅約2㍎の卵状披針形で先は少し尖り、基部は膜質の鞘となって茎を抱いています。花は白色、花弁は3個の一日花です。別名：ノハカタカラクサです。南アメリカ原産で、花期は5～7月。



ムラサキツククサ（紫露草）

庭や花壇などに植栽されるツククサ科ムラサキツククサ属の1年草。葉は長披針形の葉を根生し、7月頃から、花茎を伸ばし茎長に青紫色の3弁花をつけます。花は朝咲いて昼にはしぼむ一日花ですが、後続の蕾が多く長期にわたって咲き続けます。北アメリカ原産で、花期は7～10月。



ムラサキゴテン（紫御殿）

ツククサ科ムラサキツククサ属の常緑多年草。園芸品種で葉や茎が紫色をしています。草丈は50㎝ほどになり、夏になると、茎頂の葉の間から薄紅色の花を開きます。花は一日花で朝咲いて午後にはしぼみます。乾燥には強いのですが、耐寒性は劣ります。メキシコ原産で、花期は7～10月。



ヤブミョウガ（藪茗荷）

山野の林内に生えるツククサ科ヤブミョウガ属の多年草。葉は互生ですが密になって輪生状につき、基部は鞘状になって茎を抱いています。茎先に白い花を輪生状に数段つけ、果実は青藍色に熟します。ミョウガの葉に似て藪に生えるのでこの名があります。花期は7～9月。



ホテイアオイ（布袋葵）

ミズアオイ科ホテイアオイ属の多年生水草。葉柄の中部が多胞室になって膨らみ、浮き袋の役目をしています。葉身は広倒卵形で、厚くて光沢があります。花序は長さ10～15㍉、薄紫色の直径3～5㍉の花を開き、花被片は6個。上の1個が大きいです。熱帯アメリカ原産で、花期は8～10月。



アオウキクサ（青浮草）

池や河川で普通に見られるウキクサ科アオウキクサ属の水草。葉のように見えるのは茎にあたり葉状体と呼ばれます。葉状体は3～5㍉ほどの倒卵形で、裏面は淡緑色。根は1個です。ウキクサより一回り小さく裏面の色もウキクサは紫色なので見分けられます。



ウキクサ（浮草）

河川や池などに生えるウキクサ科ウキクサ属の水草。葉の样に見えるのは茎で葉状体と呼ばれます。幅が4～8㍉の広卵形で裏面が紫色を帯び、根は5～12本あります。同じ仲間のアオウキクサはウキクサより少し小さく円内写真の小さい方がアオウキクサで、裏面は淡緑色で、根は1本です。



エビツル（海老蔓）

山野に生えるブドウ科ブドウ属の落葉つる性木本。若い茎に腺毛があり、葉の形は変異に富んでいます。下面は淡褐色の綿毛があります。巻きひげや花序は葉に対生してついています。茎の断面は四角形。果実は球形で、径5～6ミリ、熟すと黒くなります。花期は9月頃。



オオカナダモ

河川や沼などに生えるトチカガミ科オオカナダモ属の沈水性多年草。宮崎川などに生育、葉は長さ2～3センチの線形の葉を4枚輪生しています。花は8月下旬、白色の3弁花を開きます。直径は1.2センチ、雄しべは9個、葯は黄褐色の一日花です。雌しべはありません。アルゼンチン原産で、花期は8～9月。



ヒメガマ（姫蒲）

川の縁などに生えるガマ科ガマ属の多年草。雌雄同株で、雄花穂は雌花穂の上に約3センチ以上離れてつきます。出雲の「因幡の白兎」で、ワニに襲われ皮をはがされたウサギが、大国主命に教えられてくるまったのがガマの花。ガマの花には止血作用があることを、大昔の人も知っていたのですね。花期は6～7月。



カヤツリグサ（蚊帳吊草）

畑や荒地、道端に生えるカヤツリグサ科の1年草。高さ60㌫ほどになります。茎は3稜形で葉は根元に数個付きます。茎の両端を切り、それぞれ別の面をゆっくりと引き裂くと四角形が出来ます。この四角形が蚊帳を吊ったようなのでカヤツリグサと呼ばれていますが、最近は蚊帳を吊る家庭も少なくなりました。花期は6～7月。



チャガヤツリ（茶蚊帳吊）

畑や道端などに生えるカヤツリグサ科カヤツリグサ属の1年草。高さ10～60㌫。小穂が茶褐色を帯びるのでこのように呼ばれます。カヤツリグサに似ていますが、花序の枝が分枝せず、歯ブラシ状にまとまっています。小穂は茶褐色です。花期は6～7月。



シュロガヤツリ

川などの浅い水中などに群生するカヤツリグサ科カヤツリグサ属の多年草。高さ1.5㌫ほどになります。茎は太い3稜形。葉は茎の中部より下につきます。茎先に花序より遙かに長い葉状の苞が3～4個あり、その間から3～8個の枝を出し、枝先に1～4個の小穂をつけます。マダガスカル原産です。



クグガヤツリ

河川敷や道端などやや乾燥したところに生えるカヤツリグサ科カヤツリグサ属の1年草。草丈は20㍍ほどになります。茎は三角形、葉は線形。花は茎のてっぺんから花序を何本か出して、その先に小穂が掌状に伸びます。小穂は扁平で緑色、基部が褐色を帯びています。花期は9～11月。



アオスゲ

道端や荒地などに生えるカヤツリグサ科スゲ属の多年草。高さ40㍍ほどになり、茎は鈍い3稜形で叢生し大きな株を作ります。花は4月頃茎の上部に小穂をつけます。花期は4～7月。



ハマスゲ (浜菅)

海岸や道端、畑などに生えるカヤツリグサ科カヤツリグサ属の多年草。高さ40㍍ほどになります。根に塊茎があり乾燥にも強く、アスファルトの下からも芽を出します。したたかで、やっかいな雑草の一つです。花期は7～10月。



スズメノカタビラ（雀の帷子）

畑や道端に生えるイネ科イチゴツナギ属の越年草。世界に広く分布する雑草の一つです。高さは10～30㍎。花は3月頃から咲き始め円錐花序に淡緑色の小穂を多数付けます。小穂は3～5ミで、3～5個の花があります。至る所に生える春の代表的な雑草です。秋に芽生えて越年します。花期は3～11月。



ナギナタガヤ（薙刀茅）

海岸や道端、畑などに生えるイネ科の越年草。高さ50㍎ほどになり、細い花序を薙刀やネズミのしっぽに見立ててこの名があります。葉は幅1ミほどで細く内側に巻いています。花序は10～20㍎の細い円錐状で風にそよぐ姿は美しいのですが、群落を作り畑の雑草となっています。地中海沿岸原産で、花期は5～6月。



カラスムギ（烏麦）

道端や荒地などに生えるイネ科カラスムギ属の1年草。茎は高さ1㍎程になります。食用にならず烏が食べる麦の意味。淡緑色の小穂が多数垂れ下がります。小花には2～3本の長い芒があります。ヨーロッパ・西アジア原産で、花期は5～7月。



ヨシ（葦）

川岸などに生えるイネ科ヨシ属の多年草。川岸などで群落を作り高さ1.5～3mになります。花序は淡紫色を帯びた小穂をつけます。日本全土の川岸などで見られます。アシとも云いますが、このヨシの茎で作った簾が葦簾（よしず）です。花期は9～10月。



ツルヨシ（蔓葦）

海岸や川岸の砂地などに生えるイネ科ヨシ属の多年草。地表を這う長い匍匐枝を出しますのでヨシと見分けられます（ヨシの節は無毛）。葉鞘は紫色を帯び、花序は長さ25～35cm。小穂は長さ1cm前後で、3～4個の小花があります。花期は8～10月。



ダンチク（暖竹）

暖地の海岸に生えるイネ科ダンチク属の常緑多年草。高さ2～4mになります。葉は緑白色で互生し、長さ50～70cm、幅2～5cmの線形で厚く先は垂れます。花序は長さ30～70cmの円錐状で、ススキよりごつい感じです。竹の仲間に見えることから名付けられましたが草の仲間です。花期は8～10月。



マコモ（真菰）

河口などに群生するイネ科マコモ属の多年草。茎は太く中空で高さ1～2mになります。葉の幅は3mmほどの幅広い広線形。花序は茎先に円錐状につき、長さ40～60cmあり、色は紫褐色です。枝の上部に雌小穂、下部に雄小穂をつけます。果実は棍棒型です。花期は8～10月。



オヒシバ（尾日芝）

日当たりの良い道端などに生えるイネ科オヒシバ属の1年草。メヒシバより強そうだからこの名があります。子どもの頃、茎を取ってわさを作りお互いにわさの中に茎を入れ引っ張り合って強さ比べをして遊んだものです。花序の数がまちまちです。私は1本から9本まで数えました。花期は8～10月。



ヒメコバンソウ（姫小判草）

草原や道端などに生えるイネ科コバンソウ属の1年草。観賞用として輸入されたのが野生化して、今では畑の雑草となっています。小穂を手にとって振るとカサカサと微かに音がするのでスズガヤとも呼ばれますが、取っても取っても生えてくる困った雑草です。ヨーロッパ原産で、花期は5～7月。



ギョウギシバ（行儀芝）

日当たりの良い道端、荒地、海岸などに生えるイネ科の多年草。小穂が行儀良く並んでつくのでこの名がありますが、莖は地を這ってよく分枝し、節からはヒゲ根を出して瞬く間に広がります。名前は素敵ですが、油断するとあっという間に広がりやっかいな雑草です。熱帯アフリカ～熱帯アジア原産で、花期は6～8月。



チカラシバ（力芝）

日当たりのよい道端や草地に生えるイネ科チカラシバ属の多年草。高さ50～80㍎。花序は長さ10～20㍎、幅約2㍎の円柱状、基部に暗紫色の剛毛があり、小穂には小花が2個あります。下部の小さい小花は雄性、上部の小花は雌性です。果穂は「ひつつき虫」です。花期は8～11月。



チガヤ（茅）

山野から沿岸地まで至る所に生えるイネ科チガヤ属の多年草。高さ80㍎ほどになります。葉は長さ20～50㍎、線形で縁はざらつきます。花序は白色の円柱状で、花穂をツバナとも呼びます。根は甘みがあり、蟻の巣もあります。また根には利尿、止血の薬効がありますが、畑に生えるとやっかいな雑草です。花期は5～6月。



エノコログサ（狗尾草）

日当たりの良い道端などに生えるイネ科エノコログサ属の1年草。高さ30～80㍎。花穂を子犬のしっぽに見立てたもの。花穂で猫をじゃらすのでネコジャラとも呼ばれています。昔マジック取りで筆の代わりにこのエノコログサを使ったことがあります。花期は8～11月。



オオエノコログサ（大狗尾草）

畑や道端に生えるイネ科エノコログサ属の1年草。アワとエノコログサの雑種と考えられています。エノコログサに似て大きいのでオオエノコログサ。花序は長さ10㍎程で、先端が尖り、小穂が枝分かれしています（エノコログサは小穂が分枝しません）。花期は6～11月。



アキノエノコログサ（秋の狗尾草）

道端などに生えるイネ科エノコログサ属の1年草。花序は長さ5～12㍎ほどあり、垂れ下がっているのが特徴です。花期がエノコログサより少し遅いのでこの名があります。場所によってはエノコログサより多く見られます。花期は8～11月。



タカノハススキ

民家の庭などに観賞用として栽培されるイネ科ススキ属の多年草。葉面に淡黄色の矢羽根形の斑が入り5～6葉間隔を置いて現れるのが特徴です。花は8月下旬、茎頂にススキに似た花序をつけます。



メリケンカルガヤ（米利堅刈萱）

日当たりの良い山野から荒地などに生えるイネ科ウシクサ属の多年草。高さ0.5～1mになります。葉は長さ3～20cmの線形。花序は葉腋につき、花序の枝に白色の長い毛で包まれた小穂があります。北アメリカ原産で、花期は9～11月。



ジュズダマ（数珠玉）

水辺に生えるイネ科ジュズダマ属の多年草。葉は長さ50cm、中央脈は白いです。小穂は壺型の苞鞘にあり、雄花は苞鞘から伸びた柄の先につきます。雌花は苞鞘の中で成熟します。苞鞘は黒褐色から灰白色になり硬いので、お手玉や枕の充填材として使用されます。花期は9～11月。



ススキ

道端や草地などに生えるイネ科ススキ属の多年草。高さは2㍎ほどになります。秋の七草の一つで、お月見には欠かせません。葉は長さ50～80㍎に線形で縁には透明な鋭いトゲがあり、手を切りやすいので注意。小穂には柄の長いものと短いものが2個ずつついています。日本全土で見られます。花期は8～10月。



オギ

イネ科ススキ属の多年草。湿った水辺に生え、高さ2㍎ほどになります。花期になると下部の葉が枯れます。全体的にススキより大型で小花には芒がありません（ススキにはあります）。ススキより花序の色が紫味を帯びています。また茎の節に短毛が密生しているのもススキと異なります。花期は9～10月。



トキワススキ（常磐薄）

暖地の海岸近くに生えるイネ科ススキ属の多年草。高さはススキより高く2㍎以上になり、葉は線形で縁はざらついています。花序は長さ50㍎ほどです。穂先が綺麗なのでアリワラススキの別名があります。神社の夏越しの「大祓・茅の輪」の材料として使います。花期は7～8月。



ケカモノハシ（毛鴨の嘴）

海岸の砂地に生えるイネ科カモノハシ属の多年草。小穂が密生した穂が2個あり、2個の小穂がぴったりとくっついていきます。この形が鴨のくちばしのようなので、この名があります。茎の節や葉鞘に白い毛があり、小穂にも毛があります。海浜植物の一つです。花期は7～9月。



セイバンモロコシ（西蕃蜀黍）

イネ科モロコシ属の多年草。荒地や道端に生え、高さ1.8mほどになります。花序は長さ20～50cmの円錐状で、花序の枝は輪生し、上部に無柄の小穂と有柄の小穂が対になってついています。若葉には青酸化合物を含むので要注意です。地中海沿岸原産で、花期は8～10月。



シロガネヨシ（白銀葦）

観賞用に輸入され庭園などに植えられるイネ科シロガネヨシ属の多年草。根茎から多数の茎を叢生し大きな株となります。10月頃3mほどの稈を出し50cm以上の穂をつけ、銀白色で、その毛並みが綺麗なので花材などとして利用されます。アルゼンチン原産で、花期は9～11月。別名：パンパスグラス。

